



佛國畧史

全

和装本
リ 9
4763



明治八年

佛國畧史

陸軍文庫



佛國畧史

緒言

宇内各國其治亂興廢ノ跡ヲ觀ント欲セハ史ヲ
讀ムニ如クハナシ而シテ其治ヨリ亂ニ入り興

ヨリ廢ニ歸スルノ間必ス許多ノ兵革ヲ經サル
可カラス故ニ兵ヲ用フルノ成敗得失ヲ觀ント
欲スルモ亦史ヲ讀ムニ如クハナシ恭西ノ學者
徒弟ヲ教ユル常ニ先ツ地理ノ學ヲ修メ而シテ
後必ス各國ノ史ニ及フ者ハ蓋シ之カ為メナリ
況ヤ兵務ニ從事スル者ニ於テヤ夫レ兵法書



門リ 9
號 4763
卷

佛國史 序
ニ就キ兵ヲ學フハ正ナリ歴史ニ據リ實跡ヲ觀ルハ奇ナリ奇正相須チテ而シテ變化活動ノ法由リテ以テ生ス是兵ヲ學フ者ノ史ヲ讀マサル可カラサル所以ナリ然レモ書ニ簡便浩漭ノ異ナルアリ苟モ浩漭ナル者ニ就キ博覽ヲ極メント欲セハ一朝一夕ノ能ク記誦ス可キ者ニ非ラス故ニ耑西人姑ク之ヲ普通學科ノ外ニ置ケリ予先ツ其簡便ナル者ニ就キ大畧各國ノ事情ヲ表出シテ以テ我陸軍生徒ノ讀本ニ供セント欲シ乃チ屬僚辻本一貫ニ囑シテ英人某氏ノ著ス

昭和十二年
七月十九日
購求

所ノ各國史ヲ譯セシム首トシテ筆ヲ佛國史ニ下ス然レモ書中或ハ簡畧ニ過キテ讀者隔靴ノ憾ヲ為サンヲ恐ル故ニ更ニ他ノ數書ヲ雜ヘ採リ稍刪訂ヲ加ヘ以テ之ヲ補ハシム數閱月ニシテ譯成ル是ニ於テ其古今治亂興亡ノ跡成敗得失ノ狀因リテ以テ概知スヘキナリ刺成リ將ニ之ヲ生徒ニ頒授セントス予史書ノ兵學ニ欠ク可カラサルヲ言フテ以テ卷首ニ書ス

紀元二千五百三十五年七月

陸軍少將曾我祐準識

佛國畧史

佛國ハ古羅馬の時ガ塞盧ルと稱し又加里亞アと稱す
 比里ビ尼ニ山イより萊レ尼ニ河シニ亘り以イ大利リ地方ノ者ハ
 亞アカル伯ス山ヲ踰テ亞ア得ド亞ア海クニ至ル其レ亞アカル伯ス山ノ
 以テ大利リ部ニ在ル者ヲ西シ撒サ芬フ塞セ盧ルと名ケ亞アカル伯ス
 山外ノ者ヲ特ト蘭ラン撒サ芬フ塞セ盧ルと稱セリ特ト蘭ラン撒サ芬フ塞セ盧ル
 盧ノ以テ大利リニ接シ地ニ中海ニ沿テ比里尼山ニ亘ル
 者ハ哈ハ伯ボ斯ス之ヲ畧ス蓋シ此地ノ首ト一トて羅馬ノ

佛國畧史

版圖ヲ歸セーを以て其功を表し版圖州と唱へ
 而其疆界ハ亞カ伯山塞孟子山羅尼河ヲ達セリ
 其後該撒終ニ特蘭撒芬舉盧を并せ畫して三部
 と名を其一を亞キ基達ニ尼ト云比里尼山より伽ガ倫
 河ニ亘り意卑里亞種多く之ニ踞まり其二をカガ
 里亞塞爾ル低カカト云伽倫河より塞納河及び馬マ爾
 尼河ニ至る其三を加里亞カ比利ル時カカト云北萊尼
 河ニ達ニ後舉古士都帝令を下し更ニ分て小衆
 州と為セリ
 舉盧人ハ自称して愷爾カと云へり蓋舉盧ハ愷爾

と音相近故訛轉セるなり舉盧人ハ塞爾達トの宗
 族ニして塞爾達人と大ニ相似たり其中族類を
 分つと雖とも其判然として相異なる者ハ數族
 ニ過きを而して其上古遷移常居なき世ハ今を
 距ること甚遠くして史ニ載セ難し強て之を載
 せるも益なき故記せず該撒曰加里哥族ハ勇悍
 にして出ると軍装し意合さきハ死を以て之を
 決するに至る又灑落ニして放肆ニ流ニす寛裕
 小して客を愛し誠直ニして方正ニなりと德盧瑞
 ハ加里哥族の僧官なり凡學ニ志ニ者此僧侶ニあり

るのミ故ニ人民推して之を學者として大ニ之を
 畏敬セリ又詩人有リ軍歌を作て軍人を勵ま
 且勇士の聲名を不朽ニ垂たり市府の元老及軍
 人隊長ハ之を貴族と稱し僧侶と共に富且權を
 持し百姓ハ奴僕ユして且貧窶なり
 羅馬人將士の訓練該撒の智畧を以て十年ニ
 て總ニ塞盧を服し之を羅馬の板圖ニ歸セリ是
 ム於て羅馬人民政を設け農業を勵まし國勢忽
 ちユして盛なり至り其後君主權を擅し
 大ニ之を害し此の如くユして四百年の久を経

て又是ニ至て伯羅岡士官を置し之を之を為
 黨を樹て相吞噬し加ふるニ暴君代り興り土
 寇交々蜂起し人民の塗炭實ニ哀しむ堪たり
 此機ニ乘し北狄邊を侵入し大ニ前主を
 窮蹙し羅馬の風化文學技藝衰微し國土分裂其
 勢累卵の如し是ニ至て軍憲全く敗れ羅馬の盛
 名を損し杜拉然及安土尼内の時盛なる五州終
 ニ北狄ニ奪はれたり

羅馬人此國を併せし後凡四百余年波納留士の
 世ニ至り日耳曼の佛蘭哥尼の名ニ從ひ佛蘭哥

と名くる民族我沮澤山林の地を去り沃土を求
 るんと欲し其王哈拉門の指導に隨ひ萊尼河を
 渡り塞盧に侵入せり然とも當時比利時塞盧後
 世尼達蘭と名くる地方より速く深入せず哈拉
 門ハ人民を種植し其後尋て殞
 哈拉門の後三統有り其第一統ハ佛蘭哥の第三
 王美羅味よりして之を美羅賓的安統と名け二
 十一王相嗣き四百四十八年より七百五十一年
 小至り低德黎三世癡王小至て七ふ第二統ハ大
 監百彬を以て祖とも但百彬及其子查理馬德共

小王号を称せ馬德の子百彬矮王小至り終ふ
 低德黎三世を廢し王位を篡ひ加羅賓的安統と
 名け十三王相嗣く此統ハ查理曼の在位の間大
 小國威を張りし嗣王皆暗弱七百五十二年よ
 り九百八十七年小至り王統を保つ二百三十五
 年路易五世懶王小至て亡ふ第三統ハ加頌低努
 統と称し武額加頌多小始まり三十三王嗣立し
 王統を保つ八百六年路易十六世千七百九十三年
 一月刎首せらるる小至り終ふ七ふ尋て佛國
 共和政治と為る拿破侖保那巴ハ其敗亂せり共

和政治中より暴起し實達多の名を冒して佛國を主とり千八百四年五月共和政治を變じて帝國と為る然とも帝号の存する厯も十年拿破侖其篡立せる帝位より黜けらるる是より於て路易十八世祖先の帝位も復したり上古荒洪の史記を按ずるも羅馬人佛蘭哥人維士哥多人及其他の夷民或ハ兵を構へ或ハ和を結ひ一治一亂相交代を權臣ハ朝廷も依て威を張り其主の暗弱を見もハ之を排倒し夷族も結て其力を藉り以て我權威を持す當時西帝國方

も衰微して撒遜人ハ安南及美内を奪ひ不爾昆的安人ハ塞納河の地方を有し我特人維士哥多人ハ其疆域を拓ひて羅亞爾河も至り佛蘭哥人亞爾曼人ハ日耳曼より侵入せる遷移の野民もして北部の地方を争ひ羅馬人塞盧人ハ他の部落も據るり佛蘭哥人塞盧を并ヤる時土を裂て將校も與ふ而して將校僧侶と合して一等大公會を為セリ故も政體ハ參政立君の一種もして大事ハ人民の大公會を経るも非もハ敢て之を斷セず而し

て其會負ハ兵田法を以て土地を有セテ將校より出たり塞盧ハ北狄の有と為リ政憲を立了り臨て土民自由の權理を得也但不列顛人ハ當時同民種の苗裔の為ユ其國を失ふも多ク此權理を得たり

美羅賓的安統

紀元後四百二十年

哈拉門ハ佛蘭哥の始王なり嗣王哥羅的疴疆を拓キ美羅味父祖の邦域を保ち子低德黎地を畧シ塞納河邊ユ至了子哥羅味勇武父ユ類一大

國を廣々威を振ふ之を佛國建國の祖とモ哥羅味又始て洋教を奉一大率ね塞盧人を服セリ其死ユ臨て邦地を分ち二子を封す哥羅味の洋教ユ歸セ一ヤ西國の洋宗公主ユ婚セ了ユ因る當時佛人尚他教を奉セ一ク哥羅味ユ隨ヒ共ユ洋宗ユ歸セ了者頗る多ク哥羅味大ニ洗禮を來木の伽藍ユ行ヒ終ユ洋宗ユ入了是ユ於て大ニ臣民ユ拘束セ了自由を得セ一む世因て号一て洋宗大王と稱セリ其後佛國の君主常ユ此号を稱セリ

哥羅得爾一世ハ哥羅味の季子なり諸兄暴虐ニ
 して哥羅得爾又之ニ過ク諸兄皆先ニ死ニ故ニ父
 の死ニ臨テ全佛國を有テ其邦域易地河邊より
 大西洋中亞基達内海を踞テ斯克拉克底河より羅
 亞爾河の水源ニ達セリ其死ニ臨テ國を裂キ四
 子を封テ其後非的昆多北命哈土の二妃權を争
 テ相仇視一國乃チ衰微ニ非的昆多の人々ニ集
 勇桀黠躬親ク戦地ニ臨テ屢勝を制セリ北命哈
 土ハ外美ニ一テ陰賊ニ終ニ傷を蒙テ死ニ人
 之を其惡報トシ

紀元後六百十三年

哥羅得爾二世ハ非的昆多の子ニ一テ佛國の特
 王たり此王ニ至テ大監始テ權を弄一達哥伯多
 一世ニ至テ漸ク盛リ哥羅味二世及其嗣王ニ及
 テ其勢極テ熾ニリ蓋第一統ハ諸王皆暗弱權臣
 却テ國民を統ヘ恣ニ之を虐セリ
 百彬特里德ハ低德黎癡王の大監ニ一テ全く王
 權を掌握一子查理馬德ハ雄武ニ一テ智畧有り
 兼テ政治ニ達テ其志の大ニ父ニ譲ラニ屢大
 功を立て大ニ威權を擅ニ一公爵の号を冒一テ

佛國を統理セリ

加羅賓的安統

查理馬徳ハ大監の官を得て低徳黎の暗弱ニ乘
 一君威ニ托して久しく大權を擅ふセリ當時薩
 拉^ラ丁^ン人既ニ佛國の南鄙を蠶蝕し進て中國ニ迫
 る馬徳乃ち兵を率ひ都^ツ羅^ル波^ボ低^テ爾^ルの間ニ力戰
 する七日遂ニ之を破り斬首三十万馬徳己ニ大
 功を奏し大ニ人心を得たり衆推て洋宗の勇將
 と稱も是ニ於て躬大兵を擁し佛國の政柄を握
 り貴族僧侶を黜け政務ニ參へを終ニ王を廢し

して自獨立の主と為れり

紀元後七百五十二年

百^ハ彬^シ父^ノ嗣^キ遂^ニ王位を踐し貴族僧侶の特權
 を許し為し舊王統ヲ絶フを誓し又諸州を
 裂て貴族の最大なる者ニ與へ各其封内ニ於て
 君權を行ふを許し故ニ貴族自ら獨立の勢を為
 し特ニ王を以て其頭領と為るに至り之ヲ為し
 列侯興り各公會を設け各州の政典ハ全國の政
 典ニ擬し但法を設け税を課する僧侶の聽裁
 を經る非きハ之を行ふ能ハず

紀元後七百六十八年

太子查理々々曼と名く勇豪賢明よりて韜畧有
 り以大利日耳曼及西班牙の一部を畧し教王列
 邦三世の加冠を受け羅馬西帝國の帝と登り政
 典を製し法律を編み學術技藝を勵ます群臣之
 を敬し隣敵之を憚り終身榮を盡して殂を
 路易一世善王ハ查理曼の季子なり即位の始よ
 り大ニ苛虐を行ふ諸子父ニ叛く王已を得ま公
 罰を蒙り終ニ帝位を避く
 查理禿王の在位中諾爾曼人始て侵入し剽掠を

極む查理肥王々及て巴勒を圍み查理暗王々至
 て終ニ一定の邦土を建つ是より王權衰微し侯
 伯漸く強大よりて查理曼統已ニ帝位を失ひ尋
 て佛國を七せり

第一族加領低勢統

紀元後九百八十七年

加羅賓的安統の末王路易五世の死後武額加領
 多遂ニ王位を篡ふ此武額ハ路易暗王ニ代て王
 位ニ登る羅伯の孫なり父ハ夷民の寇を防て
 巴勒を守り功を以て衆人ニ畏敬せらる加領

多雄武父祖テールノ讓ラキノ羅得爾ノ世國ヲ援テ功有
リ宗室ノ巴勒侯ハル疇ル良侯ノ二族有リ二府羅亞
爾河塞納河ノ瀕セキヲ以テ實ニ諾爾曼人ノ當
リノ藩屏ナリ

武額大子羅伯ト一テ國事ノ參リ一ニ羅伯ノ人
タル怯懦ト一テ父ノ雄武ノ肖ト白根ハル的ハルの侯國
ヲ王室ニ并モ暗弱ト一テ其名ヲ穢セリ

紀元後千三十一年

顯理一世ノ母ハ諾曼ハル的ハル侯ノ力ヲ藉リ兄ヲ廢シ
季ヲ立シト欲シ兵ヲ起シ顯理乃チ白根的を割

キ之ヲ季第ニ與ヘテ事終ニ和セリ
是時ニ方テ封建ノ弊其極ニ王侯僧徒ハ人民
ヲ驅役拘束シ且徵求百端已キ奉セシ一ニ人民
ハ其主ノ命ニ從テ益其拘束ヲ固ムキ且當時諸
侯分裂各其土ヲ土ニ一各其民ヲ民トキ故各國
の民相與ニ仇視シ一軍民疆ヲ出キハ相與ニ宿セシ
先肯セキ至リ列國モ亦相與ニ仇視シ一旦
干戈ヲ動クセハ施テ親戚同盟ニ及ビ一家ノ
爭端モ亦全國ノ亂階ヲ成シ兵連テ解キキ國土
變シ一ニ一大血野トなる是ニ至テ各國ノ君民モ

亦彼我相與之を厭ふに至る

紀元後千六十年

非立一世ハ顯理一世の太子として久く位に在
諾曼的侯維廉英海岱を渡り千六十六年英國を
併せ大に封建の制度を改革し且教王に服従を
するを肯せず維廉身幹肥大なり佛王之を嘲る是
より英佛隙を生し終に兵端を開き兵結て久く
解けきると至れり

紀元後千百八年

路易肥王父非立に嗣て立つ即位の初侯伯四方

蜂起し國寧静ならむ英王ハ佛國の權力を損
し以て我諾曼的を固せんと欲し竊に侯伯を鼓
動せしむ物情益々恟々たり兩國屢和を講じて
又屢宿怨を發せ故に争鬪暫く休て又再起せり
路易若王十字軍を出して敗衄し國に歸り終に
妃を廢せ蓋王ハ妃の故を以て幾安及波亞都を
有てり千百八十年卒に太子非立二世嗣て立つ
非立二世塞古士都と号す英王約翰を破り諾曼
的賣内安ホを奪ふ初非立カ查獅心王と共に十
字軍を出し薩拉丁人を攘ひ靈地を救はんと欲

一 二王力を戮せ終に亞給勒を取るを得たり非
立軍を班を時信を破り釁を窺ひ攻て諾曼的を
奪へり

紀元後千二百二十三年

太子路易ハ世獅王と称を非立奧古士都の嗣く
在位短くして見るべき事有る無し但大小農民
を拘束せず自由を得せしむる事最世と称せら
る王又英國の敵し勇名を著せり偶く傳染病の
感して歿を年三十九

紀元後千二百二十六年

路易九世能神を奉せざるを以て聖路易と称を英
王及佛國の大臣を泰兒堡を破り其勢を乗し軍
を引て巴勒斯坦に入り埃及の大迷達を畧し麥
薩士と力戦し戦敗まで終に擒とる王貧人を
愛隣し篤く洋教を信を再び十字軍を出して他
宗人を征せしとき室尼斯前まで卒ま太子非立
三世勇王と称を是に於て一軍推して王位に即
るしむ王寛裕にして人を愛し廉潔にして正直
まり然まとも材識足らざる所有り太子非立豔
王嗣て立つ

紀元後千二百八十五年

非立四世豔王と称を英王義德瓦一世及教王破
 尼彪八世と兵を構へ又天伯刺爾の位を廢し發
 蘭德人を服し公會を巴勒し創立して繼へきを
 為す王頗る穎敏なり然とも粗暴として殘忍な
 る所有り當路の宰相も亦皆惡事ハ王の過るも
 善事ハ更々王及ハさる者多し王の在位開始
 て貴族僧侶平民の代議士を召聚し之を全國大
 民會と稱せり大子路易十世嗣立す_{在位短し大}
 々税額を人民に課す

路易の同胞非立長王查理四世相嗣て即位す非
 立大に司法の律令を制し其名を著し查理其成
 規に従て律を主る然とも國人通積り患ひ頗る
 惡政に苦をり

第二族華路亞家

紀元後千三百二十八年

查理四世の妃塞尼ハ王の死後一女を生む佛國
 の法女子王位に即くを得る之を薩力法と名く
 蓋此法佛蘭哥民種の一族薩理安人始れり是
 於て華路亞家代て王位に登まり非立六世即

位の後發蘭德人を敗る然も英人と斯路士海岸
に戦て破らま又格列西及加雷に敗きたり他比
尼を佛國の王室に弁せらる亦此王の世に在り

紀元後千三百五十年

約翰ハ武幹有る民を統る器なる非立り嗣て立
ち連年英國と兵を結ひ波底爾に力戦し敗ま
て虜とらる是時當て佛國部黨仇視し迭々相
殺戮し加ふるに償金を出して王を迎へ復し國
人の家産之を為し耗竭せり王佛國の三分一を
割き三百万冠金を出し以て其身を償ふを約ま

然も此大金を課する能う甘心して再び龍動

反より後千三百六十四年撒歪にて卒き太子查

理立つ之を賢王と称す

查理五世賢相塞士林を股肱として國政を挽回し

再び治安を歸し物情一新せり王賢智にして勤

儉善を行ひ文學技術亦總て粲然たり

紀元後千三百八十年

查理六世嗣立き王の世佛國大に亂き嘗て寧歳

を王昏眊の疾有て屢々發せり故萬機を統る

能も英王顯理五世虚々乘して我の冠し亞成哥

爾と戦て勝ち終つ佛國の嗣王為らんと誓へり
 然も查理六世の先づ數日して卒ま是に於て
 英王顯理六世佛國の王位を踐り其尚幼冲なる
 を以て叔父別多佛侯約翰政を攝す此時英國の
 威力日々佛國に迫まり婦人如安達克國を憂て
 大に憤勵し人民の勇氣を鼓舞し報國の赤心を
 起し屢々戦て功あり然も英兵之を公彬に生獲
 せ唯魔女の恐を為て之を焚殺せり婦人嘗て日
我生に敵を
 亡之能ハされハ死して此及へり是時の方て
 查理七世塵と佛國の一部を有し別多佛侯

の死後白根的侯查理と和を媾し諾爾曼幾安等
 の本別多佛侯の権力と叔從せり者も亦查理を
 奉戴せしるハ英人終つ佛國を去るに至り
 大子路易十一世嗣立せ無道にして父を叛く其
 人たり子としてハ不孝父としてハ不慈君として
 ハ不仁なり然も深く政法を長し大に政典を
 更革し人民の風俗を一變し王權を振て之を固
 めし警戒兵を置き歩射手を編をり
 查理八世嗣立せ比利達尼の安を婚し是に至て
 佛國封建の諸侯盡く王室に歸せ查理又非難多

備前國 磐城 史

五世^カ加爾達尼^ル及呂西倫^ルを返與^ス王人心を
得其死^マを哀^ミる

華路亞^フ荷爾良^ア家^ホ

紀元後千四百九十五年

查理八世死^ス及^テ嗣子^ニ一^ト荷爾良侯路易
ハ查理五世の裔^{ナリ}故^ニ以^テ王位^ニ登^リ王天
資^ニ善良^{ナリ}徳^ヲ有^リ其位^ニ即^ク及^テ仇敵^ヲ
念^ハを特^ニ人民^ヲを撫恤^シ米蘭^ヲを得^テ復^シ之^ヲ失
ふ既^ニ那不勒^ス王國^ヲを有^チ又^テ亞拉岡^ヲ王^ヲを并^ビ教王
入^リ略^ス二世^ト兵^ヲを構^ム那慕勒^ス侯^カ瓦斯頓^ト及^テ義士^ト貝

葉多^ヤ大^ドの驍名^ヲを著^ハ佛人^ノ終^リ以^テ大利^ヲ
去^リ至^リ抑^王の名^ヲを得^ルハ軍功^ニ在^リ
て民^ヲを愛^シ信^ヲを盡^セ在^リ也

華路亞^フ安格^ア勒^レ護^カ家^カ

紀元後千五百十五年

路易十二世唯一女^{アリ}其死^ニ及^テ華路亞安格
勒護家の公子^ト法朗西斯^ヲ之^ヲを娶^リ終^リ王位^ヲを踐
む法朗西斯瑞士人^ヲ馬理南^ヲ破^リ再^ビ比利達尼
を王室^ニ并^ビ盧林堡^ヲを畧^ス王學術^ニ技藝^ヲを勸^メ奨
一^ト大^ニ學者^ヲを出^ス實^ニ歐洲^ノ中^ニ屈指^シの賢主^ト

佛國 史

て聲名を全ふして死せり

紀元後千五百四十七年

顯理二世法朗西斯の嗣立を王國を統るに至て
 物情一變を王新教公子の會盟と合して煥帝の
 敵一美的土爾惟爾順を取る是に於て煥帝查理
 五世美的を圍みし幾士侯迫て圍を解りて
 大之を連地と破る其後顯理更に一會盟を結
 て西班牙の煥家の敵を然りと非立二世聖京津
 の戦ひ西人の威名を復せり幾士侯又英王より
 加雷を奪ひしを尋て和を遷塔干貌斯と媾し終

て干戈を戢むるに至り太子法朗西斯二世嗣
 て立つ平常にして善悪なく又不善もなす蘇國
 の女王馬理を娶り十七歳にして卒す

紀元後千五百六十年

查理九世法蘭西斯二世の嗣く抑佛國の人民交
 々教宗を争て相仇視し先世業已其亂を兆
 せしり今の王に至て始て其暴戾を極を殘虐實
 言に忍ひざる者あり是に至て佛國激黨争闘
 の地と為り赤血四方に流ること年あり就中華
 西の暗殺及聖巴杜羅慕の祭日耶蘇十二門徒の

若きハ新教徒の屍野を蔽へり其夕佛王闔國縣
令々令を下し新教徒を攻めしを陽々我固より
新教徒を保全を我教宗の故を以て敢て汝を害
せしと令し陰々又令を下し先暗殺を巴勒々を
せしりハ名都大市相見て之々倣ひ雇々二月の間
々して新教徒を屠る五萬人の多き々至まり王
暴令を下す如此して忽ち病て身疼痛羸瘦して
死せり故を以て篡弒の禍を免きたり實々紀元
後千五百七十二年なり
查理死をる々及て嗣々是々於て同胞顯理三

世嗣立を千五百七十五年王新教徒と和し令を
下して曰凡新教徒各我心々從ひ各我宗教を信
せへし但巴勒の周圍二里内及其他總て政廳以
る市府内々在てハ新教を説くを許さると夫此
令ハ幾士人をして便ち相和し舊宗黨と名り一
黨を結ぶる至らしり王一旦此令を下してと
り大權全く分裂せり蓋新教徒ハ已々我主長を
奉戴し舊教徒も亦其盟主に依託し事大小とな
く其命令に從ふる至まるを以たり是々於て王
或ハ新教徒を討し或ハ之と和し反覆實々常々

く終つ一僧の為り刺す實り千五百八十八年を
り王死す臨て拿華爾王不爾奔家の顯理の遺命
嗣て佛王の位に即りてむ

第三族不爾奔家

紀元後千五百八十九年

顯理四世佛蘭西拿華爾二國の王位に登り先教
徒の争鬪を制し佛國の擾亂を鎮めんと欲し今
を難得に下し改教徒をして自由を得せしむ朝
臣因て王を奉戴し但舊教徒王を抗し不爾奔家
の老僧正を推して王と為查理十世と尊稱し是

於て顯理四世兵寡く財乏き其勢佛國を討
とさるを得て因て姑く巴勒の圍を解き買遠侯
を亞爾略及以貌を破り勢を乘し長驅して巴勒
及拉安に至り躬親ら衆を先て之を攻り終り
又巴馬侯の来り迫り為り兵を解きを得たり
至まり既して買遠侯全國大民會を召集し
佛王の撰擧を議せり但王一大に多留喀を勝
ハ新教を絶ちしを以て議士皆王を廢せり
心を罷巴勒及其他の府市王政を歸せり者甚多
是に至り買遠侯ハ白根的を退けしむ舊教黨

ハ西班牙の力を藉りて巴利達尼と據て尚王の
抗も故を以て王西國の戦書と投し奔頓法朗哥
士と戦て大之を破まり
王賢相入爾理を輔弼の任し度支の出納を調理
各州を安定し又埃家の大權を損し人民を愛
撫し専ら力を國事に盡せし一朝狂僧刺貝拉
格と賊弒せし

紀元後千六百十年

路易十三世廉王顯理四世の嗣立し其尚幼冲な
るを以て美的西の馬理國政を攝し初顯理富國

強兵を計り財貨を蓄積し是に至り馬理奢侈を
極て財貨を費し又佛稜人公西尼を嬖して國事
を委ぬ公西尼驕傲人を侮り又人を拘束を侯伯
怒り堪ま終り兵を起せし既して公西尼の死
せしを以て内亂幸りして止む公西尼既して死
て未だ幾ならず女王又路那斯を嬖し其勢前
比まきハ更に猖獗なり路易因て母を貌路亞
置けり呂孫の名僧理塞留ハ王の母子を和解せ
し功を以僧正の冕帽を賜はし是時の方て新教
徒大に舊教徒を窘せらま終り兵を擧ぐ王進

之を討し轉戦盡く之に勝し、モト塔般に戦て敗
ま大に兵を失ひ軍を班まに至り既して理塞
留の人望威權日隆、終に佛國の宰相に登り
是に於て又新に新教徒と戦ひ加爾芬の首徒羅
塞爾力戦して力盡き終に降り王母及疇爾良の
瓦斯頓大に理塞留の威權を嫉み又其跋扈を惡
み終に國を去り既してモト多摩連西侯都羅塞に
別らり理塞留五十八歳にして死し其後幾ら
ま路易も亦死し太子嗣立也

紀元後千六百四十三年

路易十四世甫て六歳父を喪ふ夫人奧氏安國政
を攝し僧正麥薩林を擢て宰相の任を公徳奧帝
と戦ひ大に之を駱克路非里堡諾徳林根連士に
破り朱連亦大に勝を得しハ奧帝終に和を納
り然るに西人尚戦を挑む是に於て幼主躬親ら
師を率ひて軍に臨み西底納及モト多米的を徇ふ
之を初征の高名とせ其後僧正麥薩林哈羅侯ハ噸
路易と和し西佛終に兵を罷む既して僧正死す
是時の方て國連年兵を用ひ度支耗竭海軍衰弱
ま路易十四世始て政を親らし賢才を擧て宰相

任一大大國威を振ハんと欲し哥爾伯及路波
 亞を擢て路に當らしむ是に於て乎度支海陸二
 軍及民政商法文學技藝頓々一新せり
 西班牙王非立四世卒を西人復兵を動かし路易
 親ら兵を將とし勇戦終り大に之を勝ちしハ
 西人乃ち和を請初近隣の列國合從して佛國を
 抗せしり是に至て大に恐る王又兵を發し和蘭
 を徇ふ和蘭の統領勇悍堅忍殊死して戦ふ王終
 り去り統領後英王の撰ハる之を維廉三世とせ
 佛王轉して舊疆公底を攻て之を復せ王攻畧を

極り躬尼美格遠の和約を製し既にして又約を
 負きしに因て西人盧林堡を失ひ阿爾及耳的黎
 波里日納瓦ハ圍を受償金を出して塵を和を請
 へり

甌土の王侯埃格堡の同盟し阿蘭的公維廉を推
 して盟主と為し以て佛王を抗せ是に於て王難
 得の令を廢せしに因て新教の良臣勇士數千人
 皆王を叛き敵國の用となす王進て同盟軍と戦
 ひ肉薄して門土那慕を取り盧林堡加低那多遠
 土慕も亦兵を帥ひ非留律士西的印基喀紐芬土

巴^バ西^シ羅^ロ擲^トヲ戰テ大ニ驍名を顯セリ
 英王惹迷斯二世位を遜キ佛國ヲ來リ王為リ大
 ナ力を盡シ之を納ムト欲セシモ終ニ成ラズ既
 テ和を禮士威ニ媾シ既洲小康ヲ屬セリ
 歐洲の治平久ク續キモ餘燼復燃ル西班牙王查
 理二世死キ巴爾里侯非立先王の遺言を繼キ西
 國の嗣主ト赫シ終ニ即位シ之を非立五世トモ
 然ラズ澳帝我子を西王ト登ラシムんと欲シ戰
 書を投シ是時ニ方テ路易の命己ニ衰ヘ非立ト
 共ニ和を乞フ然トモ同盟國望ム所の條約甚苛

酷スヲ以テ不爾奔家大ニ怒リ兵結テ解キ終
 ニ佛王勝を得テ乃止ム是ニ至テ千七百十三年
 列國和を烏特立ニ議シ非立徐ニ西國の王位ニ
 即リ後二年路易卒キ實ニ在位七十二年アリ
 佛國の形勢路易十四世ニ至テ一新キ故ニ人民王
 を稱シテ諸藝の唱首トシ又豪邁大志の英主ト
 キ夫王侯を論スヤ後世始テ其實を得ヘシ王
 の君たり今を以テ之を觀スニ嘗テ大志の英主
 ナ非キ徒ニ虚名を好み下民を毒シ其弊施テ子
 孫ニ及ビ終ニ佛國の斃スニ至ラ然トモ王即

位の初め大に文學を好む有名の學者を出せり
乃ち加爾佞拉新ハ詩日長一摩里爾ハ野史を能
く一波羅ハ小説日廣く其他奔嘯希那倫馬西倫
等皆有名の學士あり

紀元後千七百十五年

路易十五世甫て五歳餘祖父日嗣立一叔父荷爾
良侯政を攝と侯蘇人拉烏の言を用ひ米西悉比
法と名くる殘法を設く王方日十五歳日て政
を親ら一僧正非留里を擧て首相日任を蓋非留
里ハ王の師傅あり埃帝歐土を亂せりハ西班牙

牙撒地尼乃ち佛國と合從して戰て非立堡を取
り巴馬巴拉仙低亞を徇へ又噸加爾羅を畧と是
日於て兵乃ち解佛國羅米内を得たり

埃帝查理六世死一歐洲又大に亂る佛王口を巴
威里撰公日籍き二國兵を合せて上埃地利を降
一巴拉加を有一撰公冠を此日加へ波希米王日
登る查理七世一旦佛王の力を藉り帝位を踐む
一も埃地利波希米皆背叛一且和を匈加利女王
へ乞へとも固く之を拒みけり
路易十五世僧正非留里の死後暫く政を躬ら一

四軍を引て發蘭德入り美仁以伯士武爾那を
 畧せ此間公低公ハ以太利ヲ入て功を顯せ此時
 亞撒ハ襲ましりハ王進て之を援ひ美的に至リ
 病あり愈を待て非里堡を圍て之を抜く王屢野
 戰し迭て勝負あり千七百四十八年和を亞格刺
 沙百兒ヲ媾し暫く寧靜ヲ屬せ
 千七百五十五年英佛又兵端を開き佛軍日耳曼
 國戰て連戰大之ヲ勝ち漢那華を畧し因て公
 伯蘭公降を格羅斯德塞便に乞ふ英人大之を
 耻普魯士大佛埃の兵を羅士巴格破り之を

由て漢那華を復し又北倫瑞克公又佛兵を哥列
 伯破り英軍又之を華盧堡及民田破り海陸
 二軍共々功あり西國佛軍の屢敗るを見て大
 々恐き不爾奔家諸公子の約と與之を血類黨
 と名く是々於て兵亂兩半球及へり英軍ハ勝
 多く不爾奔家ハ敗多し千七百六十三年和議し
 て兵乃ち罷む
 佛王間々乗し加西客を畧せ加西客人驍勇倔強
 佛の羈絆を受るを欲せま巴斯加爾巴疴理を推
 して將とし能戰ふ佛王力戰して終て之を取ら

王千七百七十四年卒を王天資溫柔故嬖寵内政
を擅り外國制を專りせり

紀元後千七百七十四年

孫路易十六世即位を王千七百七十年己の燠家
の公主馬理安多以納土を娶まり初佛國英國と
海戦し海軍大に衰弱を是に至り王海軍を興復
し即位後數年より軍艦一百艘に至り是時
方て安格羅亞米利加人本國の苛政に苦み其
管轄を免さんと欲し是に於て米人を援て終に
其功を成せり然とも王のまより實に國の喪亂

を兆せり

各國の人民米國獨立の戦を見て始て自主の權
利ありを知り而佛國王侯貴族奕世人民を虐ま
るに因り人民是に至り全く其威權を服せし且
學士輩出各激論を放り就中窩泰兒羅索ハ卓
識能辨の士より國の成典を辨駁し大に民心
を得たり當時佛國の税法平らむを貴族僧徒ハ
租税を免りし中人以下ハ常々全額を出せり
千七百八十八年年歉して民饑へ之に加之國
用繁費支ふ可らむ因り王全國の大民會を行へ

佛國史
り蓋佛國古来一大事有之非まハ之を行ハ是
於て貴族僧徒千七百八十九年五月五日召
應して馬塞里^{ルキール}の王宮に相集りて會議せり議士
時事の急さを見て因て其漸く己に迫り長く
我権力を失ハんことを憂ひ相誓て曰凡我同盟
の人國憲を建て寧靜を復し上下安堵せらるる至
るに非まハ敢て退りて若此誓を易る者有ハ相與
之を罰せん^ルと其辭氣實に赤心國を憂る者の
若くはして人其飾説たるを知る者ま^ル故に名相
納刻爾退て佛國を去りたり

是に於て人民騷擾終に一大喪亂を成せり是を
佛國革命戰の始とせ千七百八十九年七月十二
日々曜日の夕巴勒人^{ロヤール}羅葉爾宮の公園に相集り偶に
納刻爾及河爾侯の半身像を一工人の家を得
て装ふに好帛を以て之を奉りて市上を横行し
て日耳曼の騎兵聯隊に遠土慕^{ストーム}の街上に會せり
騎兵大に之を蹂躪して驅逐し納刻爾の半身像を
破り及人傷く者あり然も人民屈せを嘯集せり
益多し是に於て宿衛兵の巴勒郊に次せり者一
隊の騎兵と共に進て朱列里園下に陣し羅米内^{ルミエ}

佛國 佛國 佛國
家蘭希斯科公之指揮一將貌羅格里河の令
を受人民を害まらなりら一む然も人民益嘯集
狂噪して公を圍ふこと甚と密まり公其通路を
絶んことを患て日耳曼隊を帥て朱列里園に入
劍を揮て一行人を斬まり是に於て騷擾更に大
にいて兵卒人民を亂射し婦老ハ號叫し傷者ハ
呻吟し兵卒因て以其鹵掠を恣にせり
衆人喧嘩各小銃を把り器械を手り相與に戒
む佛國の衛兵ハ我國人を射を欲せを反て之
を援けて進て路易十五世之宮に向へり適に旧

耳曼聯隊 旬加利之輕騎會一戰を交り終り一
合日人乃ち敗走死傷を十一人
七月十四日晨に巴勒人皆戎裝し兵民相雜り一
團となり喊吶一聲聖安多尼大道を經て巴斯低
爾城下に至り城主老倭一旗を揚けり其意其
鎮定標をり是に於て赤心隊都人五六百人
を帥ひて城に入城主自ら吊橋に至り衆の欲を
る所を問衆答ふるに彈藥兵器を以て城主伴て
之を許し既にして麾下に令して吊橋を撒し大
砲を放て城に入者を狙撃して多く之を斃し又

砲口を轉して市上を彈射是に於て衆大に怒り精練の砲手を援兵中より擇ひ加農五門及武林の大砲三門を搬して赴き援ひ巴斯低爾傍の撒爾多百杜里兒城に入て之を撃つ城主其久しく守り難きを察し白旗を標して和を乞ふ衆の怒り解け之を攻る愈急なり城主之を乞ふ再三に及ぶも遂に許し肯せま已を得まして一封の書を吊橋の隙より投して曰我の彈藥二萬斤あり若し和を納ることを肯せまハ此彈藥を發し以て戊兵及其周圍を燒夷せんと衆之を得て懼

る、丐るく却て其虚喝を怒まり衆三大砲を以進て吊橋を撃破せんと城主之を見て城門の架もる左邊の小橋を毀ち路を絶つ哈理武林買葉德跳て橋上より登り迫て内門を排まつ衆因て齊く城に入道争て衝突し抗まら者ハ盡く之を殺し遂に旗を高櫓の樹つ衆吊橋を下し皆闖入して城主を踪跡し之を刺んと欲し一兵士獲て之を捕へ其戎装を解て武林哈理に送り

又副城主察屬及砲兵の大尉を生獲を衆引て波

的兒德維爾テールドヴィールに至り土冠奪り之を戮辱せ老倭及
寮屬數創を蒙り終り死す

巴斯低爾城ハ查理五世の城く所なりて千三百
六十九年を以て工を創り千三百八十三年に至りて
成り其堅牢なること路易十四世の時の宿將も
之を抜き難しとせり是に至りて三時辰に
て陥りたり

朝廷此暴威を恐りて兵を解納刻爾の位を
復し舊顧テニス尼斯庭の統領貝理ベイリを巴勒の府尹に任
しラハウエット拉撥越多を以て護國隊の將となせり既にして

賤民の一團護國隊の一部を率てヴェルサイユ惟兒柴爾に進
み王宮に竄入し其暴戾を極め終り王に迫り巴
勒を還りしり三色の冠纓を貝理に授けしは是王
の人民に與せし證を取らり
是時哇哥芬ワゴフィン黨起り此黨ハ本良民の代理者なり
て憂國の義士數人唱首にして人民代理法を據
て事を處せしり變りて暴戾を極め終り冠賊の
黨に化せり

佛國革命戰○制裁立君

紀元後千七百八十九年

八月一日國民會議新國憲を宣し佛王を奉
り佛國自主自治の中興王の尊號を以て王
亦其忝きを謝し且恭く新國憲を奉るを誓へ
り
後未を幾ならし佛王威權の下に移り大に挾制
せらるゝを見て后及王族を率ひ去らんと欲し
己の疆に至るドレルト德羅多ハクワシキス華連士の驛長の子也之
を知り一車を路上に横倒し其通路を絶ち馳て
之を番兵に報せ番兵王を詰り王固く國を去
るの意なきを辨せし卒に巴勒を護送せらる

此時王の同胞ハ路を殊にせし幸ありて免
またり
巴勒の人民ハ王の國を去らんとする心あるを
知り益之を惡し既して王后太子及其妹アタムエ亞當以
利沙伯リサバを捕へテラブル天伯兒の獄に幽し終に王を國民
議會に延き責るに國憲遵奉の誓ひ負くを以叛
逆とみなし其罪死せしむるを以て之を弑し竊り
其屍を巴勒の墓門に埋り又其坑を填むるに
石灰を以し王黨の來て其墓を發し其屍を移し
防り實に千七百九十三年一月二十一日七路

佛國史
佛國史
佛國史

易十六世ハ英主ト称モリ足モト雖モ又實ニ
暴恣淫逆ノ君ヲ非モ只深宮ノ中ニ生長シ怠惰
委廢ヲ漸シ事ヲ處モリ斷ルヘ故ニ君主專權共
和政治ヲ論セモ憚悍ナル佛人ヲ統馭モリ器
ヲ乏シク且英米二國ノ戰ニ米ヲ援リて我國共
和政治ノ風氣ヲ成シ終ニ其塗毒ヲ遇リ

共和政治

紀元後千七百九十二年

路易の幽囚間國憲更ニ一變シ千七百九十二
年九月二十三日制裁立君共和政治トナル其後

賊又后ヲ弒モ初賊后ニ誣リテ冤罪ヲ以テ歐洲
の列國大ニ之ヲ惡ミテ皆手を束テ傍觀シ后
ヲ救フ能ハズ賊ノ后ヲ害セントキリ固ヨリ
已リ久シ百方之ヲ凌辱シ千七百九十三年十月
十六日終ニ斬首機ヲ以テ后ヲ弒シ一坑ヲ鑿テ
其屍ヲ埋メ填セリ石灰ヲ以テ猶王ヲ葬ルこと
一后姿容美ニ儀表鄙ラキ人ノ之ヲ則トシ且耳
曼ノ先帝留波爾二世ノ妹ナリ是ヲ於テ弒セリ
實ニ年三十八
是時ニ當テ般德黨蜂起シ加ふるニ歐洲全土及

佛國史

英國皆國民議會を恐て兵を起して之を討ま
 議會者急て生兵十四軍を募り給まると紙幣
 を以て之を發し格斯陳ハ面的を畧し悶底士
 格ハ撒歪を侵し里兒人ハ本府を圍り埃人
 退り入慕理埃ハ比利時に侵入し一戰塞拿伯の
 敵軍を陷まると因て將校皆凱歌して相歡呼し
 都人士ハ所謂自主の樹根ハ赤血を以飽せしむ
 今日て共和政治の繁成を企て望むへしと喜
 ぶ色あり得るも既て此共和の成るを期まへ
 り

共和黨里昂を圍り二月に之を陷る夫佛國
 の兵亂暴戾恣睢實古今未だ其比を見ず其最
 甚者ハ斬首機を製し無罪の人民を到子後此器
 人を殺ま尚緩まるとして或ハ躋して衆人を羅
 尼河に投し或ハ霰彈を街上に放ち衆人を一時
 殲殺せり議會又府中の城堤公館を破壊せん
 と欲せしり巴理爾痛く之を争ふを以僅に止を
 得たり因て此府を称して免元府と曰り至き
 佛國此時亂賊猖獗其殘逆筆舌を以縷述ま可ら
 ま新曆を製し日曜日を廢し各月を分て三旬と

ま一其各旬の初日を以休日とせ其後幾なるを
僧徒自ら宗教の職務を棄て自主帽を戴き巴勤
の有司に陪一議會に來會す慕林の僧亦其僧帽
を投し死ハ永世の眠の梵語を説く其他自主神
公平神等偽て名號を造り其假像を製して之を
祭り又一處女の放心せる者を奉一有道の女神
と尊ひ之を龕中に安して衆人を一して之を禮拜
せしり
羅伯必埃兒當時殘虐を極し斬首機を用ふる虚日
なく數千の生靈王黨共和を問を擧て死し歸を

王の妹女主亞當以利沙伯王の従兄荷爾良侯
亦死せり侯人と為狡猾自ら爵號を廢し非立以
瓦理多の名を撰み陽に愛國の志氣を鳴らし陰
に王位を篡ハんと欲を嘗て國民議會に參り主
として王を死し處まらんとを論せり是に至り
又終に到ねらる二黨侯の親戚を殘ふ不仁なる
を以皆以快とせ嘗て一人の之を哀者なく天
誅其所を得たりとせ其實に年四十六子以瓦理
多共和政治に黨して戰鬥し一日佛國の王位に
登り路易非立と稱せり

佛國此時を以て虐政の世と稱す然とも羅伯必埃
兒の暴威久を得て多^ク理安^ク嘗て議會衆中勵聲其
暴虐無道を面折せ衆皆固より其暴虐を苦く人
人自ら首領の保ち難きを危か因て其機に乗
之を圖らんと欲し相與數る其大罪を以て無
乃ち之を剋れ羅伯必埃兒嘗て斬首機を用て無
數の生民を殺し流血未だ乾くを輒ち又身血此
機下り流る人之を聞て皆以快とまき、るなり
時千七百九十四年七月二十八日也
羅伯必埃兒の死後乃ち國憲を改革し督理官五

人政を行ふ留伯巴拉刺列維里爾勒波墨林杜來
里亞多^{リアルト}を撰て之に任し又兩議院を設け一を元
老院と稱し一を五百人院と稱し其に政を參し
各院の全員三分の一は毎年之を更代し又督理
官中一人は毎年之を更代せり
千七百九十二年來佛國歐土の列國と戰を交へ
普魯士嘗て佛疆を侵せし後兵を解り佛國
ハ陸戰に長し千七百九十五年日耳曼地方を畧
し奧屬尼達蘭和蘭及萊尼河岸に至り以大利地
方ハ撒歪^{サイガイ}を取まり

千七百九十六年初拿破侖年尚弱く人未く其名
 を知りし督理官巴拉舉て以大利軍の將となす
 拿破侖戰に臨みしより神助あり如く戰へハ必
 勝ち攻まハ必取リ人愕然其韜畧驚く千七百
 九十六年四月塙人辟門人と悶的諾多及美列西
 摩に戰て之を破り又撒地尼王を困り撒奎尼
 西を割て和を乞ハし又五月八日波江を渡り
 翌巴馬に迫り和を納り八月三日羅拿多に戰
 ひ五日加斯低里昂に戰て大將窩慕塞爾を破り
 鼓行して直に地羅利に入り十一月十五日亞兒

箇爾に戰ひ千七百九十七年一月十四日里波利
 に戰て阿芬的を破り又教王と和を杜連低諾に
 媾し以て佛國の亞維那尼を割き西撒芬共和國に
 波羅拿希拉羅馬拿を割りし又皇族查理と列
 遜索に戰て之を走らし千七百九十七年四月
 十六日塙國と和を列府便に議し既にして和を
 干波婆米府に尋ば塙都因て覆没を免まじり
 後列國一會議を創り各其心を規り泰平を開き
 與に慶福を共せんと欲し拉斯達を以列國宰相
 の集會所となし與に事を協議せしむと十五日

交々信々終々相和せし佛國の全權使^{ボナパルト}奔尼爾
羅伯若多^{ロバート}歸途日耳曼兵を殺さる是に於て兩國
會議間兵馬を召募せしを以再兵端を開き
此會議の際を間し佛國埃及^{エジプト}を畧せんと欲して
大に兵船を土崙^{トル}に艦し保那巴の帥ふる所を以
大和軍の精兵凡四萬二千人を撰ひ之を乗らし
む歐洲列國相見て大に之を疑懼し而英國最も
甚く皆以為らく拿破侖躬親之を指揮せん
と然拿破侖の事を行ふに極て密にして常人
意の表に出るを以人其計の出る所を知らざる能ハ

ま千七百九十八年五月拿破侖親ら陸軍を督し
貌留^{プロ}を以水師提督とせしを土崙に解き東向
して海に航し六月馬他^{マタ}を畧し七月二日埃及の
亞勒山^{アキサ}勒^レに至り英國其東向を見る乃ち水
師提督納爾森^{ネルソン}を遣し之を追撃せしむる不及
佛軍三日亞勒山^{アキサ}勒^レを陥し其數敵將と戦ひ之を
破り初て陸に上りしより二十一日に於て已に
首都大改羅^{カイロ}を併せ全埃及を狗へり
保那巴軍を頓して未だ幾ならし英國の兵船輒
ち埃及の海岸に至りし適に佛船亞不幾兒港^{アブキール}

泊せり八月一日納爾森勇を鼓して之を攻撃
 して大日之勝たり
 保那巴既^レ埃及を并せ轉^レて西^シ里^リ亞^アを尙へん
 と欲^レし千七百九十九年二月の初^レ部署既^レ定
 り大改羅より發^レし沙漠を渡り沿道^ヲ以^テ亞^ア理^リ士^ス惹^ク
 波^ハ那^セ路^ユ撒^セ冷^ムを畧^シし深入^シて遂^ニ亞^ア給^ク勒^レに至^リて
 之を圍む意ハありき英將西^シ德^ト尼^ニ斯^ス密^ム帖^ト小船隊
 を率^テし赴き援^テ守城せしとハ是を以保那巴力
 ら之を攻^メると四十餘日終^ニ拔^キこと能^ハま大^ク
 兵を失^テ軍を班^セり

此時佛國更^ニ變動加ふる拿破^レ破^レ巴^バの嘗^テ畧^セ
 る所^ノ以^テ大利地^ノ大半を失ひしハ拿破^レ破^レ命^メ
 を聞^テ輒^チ拿^ト多^ト利^リ亞^ア副^ク王^ノの軍を亞^ア不^フ幾^キ兒^ニ擊^ツ
 て之を破り機^ヲ投^テて埃及を去んと欲^シし其畧
 する所^ノ地を其將古^ク列^レ伯^ト委^シ而自ら將^シ校^シ數
 人を從^ヘて一小船^ヲ乘^リて歸^ル路^ヲ英國無數^ノ
 哨船中をも幸^ニして免^ルを得^テ十月十三日故
 なく不^フ勒^レ入^リに至^リ十六日巴^バ勒^レ入^リる府民狂
 喜^シする所皆勸^メ呼^ビせざるを^レ保^レ那^バ佛^ク國內^外の
 情^状を聞^キし其嘗^テ畧^セし所^ノ地を失^ヒ我

勞して功なきを歎一最も國內黨を令ち相與日
吞噬せざるを傷り此時佛國兵士服食なく資給なく大
臣ハ謀叛度支ハ府庫罄竭財貨耗屈せし保那巴天
資英邁權變あり見て以為く今斷然自ら萬機を
決するに非ざるハ其急を救ふ能ハんと因て意を決
して我親信將佐及軍士を以補翼日供十一月九日
自ら政を握り共和後三年立る所の舊政を廢し
乃ち自ら一等岡士に任し威權内外に振へり
是に於て保那巴大に綱紀を更張し政廳を聖給
羅に置き元老院を大遊園に五百人院を橋林に

會し羅西安保那巴をして統領せしむ保那巴
元老院に入氣貌壯嚴從容として衆に言て曰方
今我國百禍着り臻り實に危急存亡の秋なり願
くハ諸君の意見を藉て幸に之を宜き處せん
と衆一聲答て曰國憲を復せざるに在りと保那巴
聲を勵して曰誠然り我亦之を思ハざるに
あらま然とも國憲既に衰頽し其弊暴君汗吏因
て以之を弄して其虐政を行ふの器となせりと
既にして橋林院ハ政廳を變置せし所以の意を
察し敢て激論を發し大に之を争へり統領之を

鎮むるも衆益憤惋一相呼て曰統領を倒せへ一
統領ハ有なき如と此時保那巴ハ衛士四人
を攜へ帽を脱し頭を露して入衆罵詈して曰彼
何人そ何そ刀劔なき何武士なきやと既して
數人庭より下り保那巴の襟を捉り數る罪を犯
せし無道を以し戶外に擠せ一人あり劔を揮て
之を刺んとせし一衛士來て之を拒き且將官
列希貌耳馳て來て保那巴を救へり保那巴間を
得て馬より上り兵士を麾ひて去る余羅西安一隊
の衛士を率て庭に入一鼓して進撃し銃槍を揮

て抗者と排せり是に於て督理官を廢し臨時兩
士官を置き都人西以士入哥保那巴の三人を以
て之に任し更に衆議士二十員を置き新政憲を創
制せし又舊憲を廢し新憲定制中を以岡士官
を執政職に任し又羅西安を内務卿に達禮蘭を
外務卿に加耳諾を兵部卿に不塞を警保卿に任
せり

岡士政府

紀元後千八百年

新政定むる所ハ岡士三人を以て執政となし一

伊國器史

人を以長とまゝ元老院ハ其員八十人終身其職
に居らし中六十人ハ岡士之を撰任し他員ハ
十年中毎歳二人を撰ひ加て其數を全ふ也又紳
董院ハ其員三百人多理貌納士ハ其員百人と
保那巴ハ一等岡士となり十年之に任し干巴塞
爾列貌隣ハ二等岡士三等岡士となり五年遷り
る命を奉り又西以士ハ保那巴を助て改革を行
ひ且新政體を創制せし功を以て年々一萬五千
法蘭哥の地を賜はせり
岡士官大ニ改革を行ひ保那巴先自ら書を作り

英王は投して和を謀りしに答て曰佛國舊王統
の時數百年大ニ繁盛せり今舊王統を復せまハ
二國幸々和を保つへし是其意和を欲せざる
に在之を要するに干戈を動かしざるを得也
新政府精を勵まして治を圖る是に因て諸黨の
良將相和し又嘗て外國に逃亡せる者數千人も
亦復歸し皆岡士政府を愛戴して各努力せり是
に於て保那巴自ら以大利軍將とし其機智敏
捷なる人目を驚せり此時奧軍聖北勒拿多山下
の谿中に陣せり保那巴謀之を知り乃ち之を襲

佛國器史

備國器

ハんと欲を亞カ伯山路險々して人皆以軍を行
へりり走とふすを鼓行して過て之を襲へり蓋
し此奇計ハ險を衝き勇を鼓走り非まハ行ふ
へりりさる所にて實に漢尼巴以來未嘗之
之有を聞けし但其計の險故其功も亦大なり
千八百年六月十四日馬噠格力戰して以大利
の奇勝を決せり
此時摩羅ハ萊尼軍を指麾して十二月三日波濱
林天と戰て之を勝ち直に維也納に迫りたり
國敗績大に恐て千八百一年二月九日終に和を

約せし英國ハ従ハさりき
乃約して萊尼河を以佛日二國の疆界となし而
日耳曼の侯伯此新約に因て萊尼河外の土地を
失へる者も代りて河の右岸の地を以て又以大
利ハ亞日的河を以奧地利西撒芬共和政治の疆
界となせしハ摩德拿公の地削らるゝを以奧
地利ハ奧里魯病的諾の地を以て又多加納
大公國の土地を以て多羅里亞王國を興し佛西
二國の約に從ひ之を巴馬公と與へ多加納公と
代りて日耳曼中の地を以てり歐土列國之に倣

以^{ポルトガル}葡萄牙千八百一年九月二十九日佛國と約し
魯^{ロシア}西亞土耳其^{トルコ}ハ十月八日九日款を致せり

紀元後千八百二年

是^レに至^ルて英國亦款を致し幾^クなりを和を安^ク眠^ク
講^スし約^スまる^ク佛國ハ日耳曼^ニ達蘭邦内の侵
地を有^チ和蘭瑞士以大利を統轄し英國ハ馬他
を^シ聖^シ戎^シの士社^ニ復^スし以^テ阿^{ラビ}島を獨立共和政治
と^スみ^テ錫^シ蘭多^ク黎^ク尼^ク達^クを除^クの外畧^スまる^ク所^ノ佛國
の諸屬地を還^シ佛國ハ那不勒及葡萄牙の王國
を保全^スまる^クの議を以^テ千八百二年三月二十

七日終^ル此條款^ヲ印^シ歐土の人民姑^ク安堵
せり

五月保那巴^レ列^シ的^ニ命^ジ德^ク諾^ク官^ヲを創立し既^ニして終
身岡士^ノ任^セらる^ル保那巴又佛國寺院の爲^ニ新
く即位^スせる羅馬教王^ノ議^シて一定の僧務を設
け隨意^ニ舊教を信^スまる^クを許^シ新^ク佛國僧地を
區畫し一等岡士自ら和尚を撰擢し又信を共和
政治^ニ致^スその誓書を約し又七人を召還^ス人々
皆歸^テ餘年を終^ルる^クを悦^ビへり
保那巴の兵鋒向^テ所敵^ニく加^ハる^ク其身高官

伊國史

と登りしを以驕心一發他國を蔑視せること土
芥の如く一日大に英國の使を凌辱せり是に於
て兩國乃ち隙を生じ英國ハ未だ決戦を宣せざ
るに先て佛船二隻を奪へり保那巴之に報るに
令を國中に下し英人を捕へし其之を佛
國に捕へし者一萬一千人和蘭に於る者一千
三百人の多に至り

紀元後千八百四年

將官比塞格留過激の王黨若爾日將官摩羅の友
人拉若來士各相結託し保那巴を暗殺し岡士政

府を覆さんと欲し計畫既に備まり然るに保那
巴ハ二月巴勒に於て幸に之を發覺し首謀比塞
格留を獄に繋ぎ若爾日及其黨與を刑し摩羅も
亦友人に坐し政府を覬覦するの寃を蒙り二年
間幽囚の裁判を受し罪一等を減し亞米利加
に謫せらるるなり

當時人倫に戻まる惡事を行ふ者亦尠くは保
那巴亦其一事を犯し保那巴令を下し巴丁
中立國にて不爾奔公の曾子英的因公を逮捕し先
之を斯拉斯堡に送り又巴勒に送り後若先納の

伊勢傳
卷之八
伊勢傳

若中ニ送り即夜一軍人を遣一責むるヲ逃軍ヲ
黨一佛國ヲ敵一且竊ヲ若爾日黨ヲ通モスノ罪
を以てセ一ウ叛跡の徴をへきな一然るヲ保那
巴公法を破り人倫ヲ戻り其罪の死をへきを告
ケ夜半乃ち若外ヲ出ス一之を濠内ニ銃殺一た
り嗟呼公ハ勇將一して令名あり是を以て反て
保那巴の猜忌ヲ觸レ此ヲ至まり
保那巴ハ帝位ヲ登リ英國を討センと欲一百万
其策を運セ一ウ會ク五月一日多理貌納土中拿
破命保那巴を世襲の帝位ヲ登せへきの議を發

一元老院も亦之ヲ合一拿破侖若男子なき時ハ
其同胞の兒子を擧テ嗣子ヲ撰ムへきヲ決テ因
テ保那巴の家族を呼ム一太子公主陛下の尊称
を用ヒ一ウ一ウ是ヲ於テ佛國共和政治十一年
四月一して終まり其政治の歲月英國查理一世
の死後公門維士政治と長短を同ふ也
此時教王彪士七世巴勒ヲ来リ十二月二日新帝
ヲ賀ス一儀を盡セリ新帝親ク帝冠を取テ之
を頭上ニ戴キ加冠の禮を行ふたり是ヲ於テ以
國の共和政治亦佛國ニ倣ヒ千八百五年三月十

佛國史

佛蘭西
拿破侖
第一

五日統領を改て以國の王と稱し因て拿破侖
五月二十六日手ら朗罷地王の鉄冠を取て之
を頭上り戴き米蘭の大和尚之を祝賀して禮を
終まり

拿破侖以國在留問里格利亞共和政治元老院の
乞に應し六月四日治那亞を佛國に併せ同年小
邦盧加共和政治を改て世襲の侯國となし之を
我妹以里薩の湯沐邑と為す其他又我兄弟を封
せりの國土を立んとせり
拿破侖萬機を統治する英斷果決衆民悅服し人

々敢て他事を思て唯英國を討滅せりを以て
心とちし一場の談話も皆此意を主とせしに至
まり四月十一日英魯の二國彼得堡の會して竊
り合従し以て佛國を敵せんと議し八月に至て
壞國亦此に與し瑞典も亦此約に入り軍資を受
けたり然るに皇帝拿破侖ハ心竊り以為らく吾
隣王に啗てしむるに漢那華を以てせしハ彼果
して合従せざるへし然らハ其他の列國敢て不
軌を圖るも恐るゝし足らまは神色自若毫も悖
怖の色なし

佛蘭西

將帥馬塞拿ハ皇族查理ト以大利ノ争ハ
佛那ノ二國中立ノ條約を結ヘテ後二万五千
ノ佛軍を率テ那國より上以大利ノ侵入一又皇
族非難多及將官馬克ハ日耳曼ノ奧軍ヲ將トシ
千八百五年九月巴威里ノ寇入一撰公ヲ要スル
兵を出シテ奧軍ヲ合スル歟將ト兵を解ヘキ
コノ意を以テセシテ撰公ハ拿破侖ヲ合シ瓦敦
堡巴丁ノ二公も亦之ヲ做ヘリ
拿破侖ハ英國を討セント欲シ兵を不羅尼ト屯
一方ヲ其攻取ノ畫策を運シ諸將ト部署セシテ

此舉を變シ親ウラ將トシテ急ニ瓦敦堡ヲ進メ
戰を令シ而シテ伯爾拿多的ノ軍團及巴威里人
ハ普國ノ附庸中立地ノ安士發克を經テ多惱河
ヲ向テ進ミ一普國ハ舊約を變シ兵を魯國ヲ
交界ニ屯シテ斷然佛國ト絶チ魯帝ノ伯靈ヲ留
泊セヨク乘シ十一月三日波士提日約一力を戮
セテ拿破侖ヲ敵トスル約を結ビ乃撤遜人埃塞
人ト合一治勒ノ國疆より多惱河ヲ至リ追軍を
張りテ佛人乃チ蘇亞比亞ノ奧軍を圍ミ連戰
十月六日より十三日ヲ至リ終ニ大ニ之を破ス

り是に於て將官馬克ハカ屈一鳥幕を解き三萬
の兵士と共に降り一皇族非難多ハ轉戦して
纔ニ波希米ニ達一佛軍ハ破竹の勢ニ乘一長驅
して巴威里壤地利を経て摩拉維亞ニ闖入一十
一月低羅利の礮路を扼一連リニ散戦して魯ウ
數軍を卻け十一月十三日遂ニ維也納ニ據リ尋
て又泊勒堡ニ攻畧セリ其後十二月二日大ニ魯
的爾里士ニ力戦一連戦二月ニ一て竟ニ勝敗を
決一とリ皇族查理ハ蘇亞比亞の敗報を得日耳
曼の域を過きて軍を退け路次亞日的河邊ニカ

戦すること三日抑塞的爾里士の戦ハ兩軍各一
世の智勇を盡くして戦へり此時璦魯の軍ハ八
萬將官哥室蘇伯及列敦土公の兩將之を指揮せ
一ウ拿破侖終ニ大ニ之を敗り聯合軍ハ大砲百
門を失ひ死傷及虜とまる者三万人此其戦の劇
烈を見るへく且拿破侖の戦畧を想ふへ一此時
佛將大伯索兒蘭納伯低爾慕拉ハ各皆高名を顯
ハ一たり
法郎士二世ハカ巴屈一拿破侖ニ謁一第六日
休兵の約を乞ひ尋て和を伯勒堡ニ講キ奧國ハ

佛國史

此約ヲ從ハ其希納低領モ以大利王國ヲ低羅利
及日耳曼ノ數國を巴威里コ貌里壘を巴丁ヲ自
余ノ蘇亞比亞ノ地を瓦敦堡ヲ割キ又巴威里瓦
敦堡ニ選公ノ王ヲ昇リ巴丁選公ノ選公長ヲ進
ルヲ知テ已を得キ多く其處分ヲ從ヘリ抑佛
軍ハ陸戰ヲ在テハ百戰百勝セリ獨リ海戰ニ
至テ、英ノ海軍ヲ為メ大ニ敗ラキ維紐貌格
惟拿ノ二將佛西二國ノ船隊を合聯シ英將納爾
森ト多刺哈利瓦ヲ力戰シ大敗シテ兵艦殆んど
壞盡セリ時ヲ十月二十一日アリ

十二月十五日佛帝復普國ト和を維也納ニ約シ
兩國ノ交誼を一新シ且迭々舊邦ト新畧ノ土地
とを相保チ佛國ハ漢那華を普國ト與ヘ普國ハ
安士發格古禮貌紐伯沙多爾を佛國ト與ヘリ是
ニ於テ普國ハ漢那華ヲ據リ又其管下ノ港口ニ英
船ノ入津モるを禁シ其勢ハ英國ト敵セざるを
得タリ至キ初那王會々事々托シ英人魯人
ノ上陸セラル方々中立ノ約を破キリ因テ元師
馬塞那ハ一軍を率カ上以大利ヨリ那不勒ヲ侵
入シ輒チ之を攻畧シタリ因テ佛帝公然我兄約

佛國史

瑟を封して那不勒及細々里の王位に即りしめ
たり然るに非難多四世ハ家族を擧て細々里に
逃走し且英の船隊固く之を守禦せり故に約
瑟拿破命之を兼統せりも唯空名を領せり過
きに幼然波哈納ハ后妃若塞芬先夫の子なるに
是に至りて以大利の副王に封せらる多禮蘭ハ委
内孟多公の爵を賜ハリ伯爾拿多的ハ奔土喀爾
波公に任し佛帝の次第路易ハ世襲和蘭王に昇
せり拿破命ハ歐洲に跋扈し公法を顧みん忌憚
なきよと此の如く終り萊尼聯邦を興して躬り

ら之に盟主と為る是に由りて日耳曼帝國ハ建國
千有余年の久きを経りて是に至りて國終り七
萊尼聯邦之に代りたり實に千八百六年七月十
二日なり
是時、當て普國ハ尚自ら危き常に自安の策を
求りて英魯の二國之を憇息し終り復佛國に敵
せり因て拿破命親りて大軍を率ひて大に日那
に戦ふ兩軍兵を交ひり者二十五萬人普軍終り
大に敗ぬし死傷せり者二萬余人擒とせり者四
万人大砲を失ふ三百門皇族非難多も亦戦死せ

是、於て普國の城兵悦懼、阿德河西の諸城風
を望て降る師を出、トヨリ未、一月ならず十月
二十五日拿破侖普都伯靈を侵入せり
保那巴是に至て著名なる伯靈公諭、所謂大陸條
例を宣せり蓋此法ハ英國島を孤立せしめ英國
の商品を買ふを禁、總て英國及其屬地、往還
せる船ハ佛國所轄の港口に入津せるを免さ
以て英國の力を殺く、在り
佛國又非斯士拉河を越へ千八百六年十二月二
十四日普國と兵端を開き、加撒那窩、奮戦、烏

給拉河左岸の魯の堡砦を攻畧、明日大伯撃て
魯國の大將加密士基を走らし、之ヲ為り明日魯
將總督を辭し孟仁旃之ヲ代て、輒ち戦地を東普
魯士ヲ移し千八百七年一月二十三日、奔土喀爾
波公の前哨を襲撃せし、公二十五日之を摩隣
根ヲ防き能機ヲ應、て本軍の翼を護、以て兵
衆を糾合せる、至き其後二月一日より七日
に至る迄連戦し終、永老ヲ力戦、殺傷過當、迭
々勝敗有り是ヲ於て兩軍交綏し、各兵を休息し
生兵を徴集せり

又勸哈伯^{ハバ}但低克^{ドク}を圍て擲彈を以之を攻撃し
 因て魯人の一隊城兵を救ハんと欲し准比塞爾^{クビセル}
 河口に上陸せし佛將蘭納擊て大之を破り
 城將加兒克留士^{カエルクリス}窘感五月二十四日竟に降て城
 を致せり又兩軍各隊を令て逃し相散戦して止
 さりし千八百七年六月十四日佛人大に魯人
 を非里多蘭^{フリドラン}に敗りし是に於て三國の君主尼
 面河上^{ニマヘカミ}に會し又低爾悉土^{ドールシト}に宴し各相親睦し其
 後七月九日佛普の兩國多禮蘭加兒克留士を目
 代とし和を低爾悉土に結ひしり此和に於て拿

破倫ハ普國の人民過半の地を削り之に加ふる
 我有る歸せし數州を合して新に二國を興し
 一を惟士發里^{ウイシフアリ}と名り塞羅慕保那巴^{セロムボナバ}に賜ひ一を
 注肖^{シウ}と稱し撒遜王^{サソン}と與へ注肖公^{シウキョウ}と稱せり又墨
 林堡^{シムリン}斯乘^{シムシヤ}零^{シムシヤ}疴^{シムシヤ}敦堡^{シムシヤ}及額達^{シムシヤ}ハ魯國の媒介を以て
 各舊地を復し又佛魯二國ハ迭に其邦域を保ち
 他の列國に此和議に參り亦各其邦域を保ち
 拿破侖^{ナポレオン}已に覇を稱し威權赫奕古來之日及ふ者
 なく世人目を側て其偉業を立るの神速なるに
 驚き皆節を屈して故事を然共拿破侖ハ尚屢足

せむ口々自主自由を称して反て大に人民を挫
梏を各邦の君主も亦一人の自由を得る者なく
人を蔑視する土芥の如く特之を以て我身は
朝貢せる與國の大數を算する數字の念を為し
陽に國威を立るを以て口實とし陰に一己の私
欲を逞むるを計り臣妾の佞諛を聞て揚々自得
し税を課し用度を節せむ奢侈を長して後往昔
の君主政治の惡風を復し書冊の出版ハ官吏を
設て之を強制し決獄公正ならん帝躬より百官
有司を撰任し一人之を争ふを得ん國事議衆ハ

唯逡巡して其任に當らむ目代衆議の政府なる
る目代の選法實に笑ふべく政府の憲法ハ特は
元老の名に藉て佛帝の號令を頒布するに過ぎ
ず是に至て各人の自由復存する者無く巡邏ハ
人民を守護するに非を却て人民の鼻息を窺ふ
て彼の意匠を疑察し歐土全洲一箇の鉄網を張
り兼て又大に生靈を課し強て丁壯を兵籍に編
入し佛國の青年元老の手を経て拿破侖の爲に
課せらるる恰も一種の年貢の如し
又拿破侖ハ心中常に事ヲ托し西班牙を併せん

伊國 馬呂史

と謀りて先葡萄牙の英國の援を絶つを以て
急とて西國を啗むるに戮力して葡國を討滅
せまハ西佛二國之を分割するの利を以て因
て佛西二軍合従し千八百七年十月二十七日俱
に軍を進めて葡國に向ひ十一月三十日佛將入
納里斯本に侵入し葡國の王族ハ貴族數人と共
に資糧を英船に載せて巴西に遁まるとり然るに
千八百八年西國の貴族平穩公哥德の執政に厭
ひ非難多七世を王と登ほせ我國をして外國の
羈絆を免らしめんと欲し輒ち查理をして我

子の為り王位を避けしめし拿破侖ハ責め
其已まじ議せしめて處せしを以て西王父子
を捕て幽囚し我同胞當時那不勒王約瑟をして
西班牙及印度に君臨せしめたり是に於て西國
の人民大に怒り各兵を起し英將克林登ハ兵を
率て之を助け長く佛兵と雌雄を争ふるとり英史
此戰役を名て半嶋戰と云ふ
奥國ハ今者西國の兵亂を以て我舊威を日耳曼
に復せしむの好機會とすし煥帝法朗士佛國と戰
を宣し直ちに進て巴威里以大利及注肖に入り

拿破侖命ハ變リ應ル瓊ノ意外ニ出テ所謂敵
の謀ヲ撃チ躬ク大軍ヲ帥テ四月二十二日二
十三日進テ以給母兒エグマル拉低斯本ラチスボンニ戰テ大ニ皇族
路易ヲ破テ多惱河外ニ走リセ鼓行シテ京城維
也納ヲ畧取セリ然ルニ皇族查理敢テ恐レモ五
月二十一日佛軍ヲ亞斯伯隣アスペレンニ撃チ明日力戰晨
より昏ニ至キリ拿破侖困感遂ニ軍ヲ羅波島中
ニ班セシメ會ニ洪水流溢シ此島より多惱の右
岸ニ架セシ橋ヲ流シテ道路通セシ佛軍實ニ危
急ニ陥リ漸ク二月ヲ経テ纔ニ敗兵ヲ集合セリ

是ニ於テ拿破侖再ビ軍ヲ進シ河ヲ亂リ七月五
日六日華格拉慕ワグラーマニ力戰シ大ニ瓊人ヲ破テ乃チ
解兵ヲ乞ハシ和ヲ維也納ニ講セリ時ニ千八
百九年十月十四日なり
是ニ於テ瓊國ハ人員三百萬ノ土地ヲ失ヒ撒西ササ
堡伯比多兒斯加典等バトールスガディンハ之ヲ巴威里バウリニ割キ西加カガ
里細リシノ全部東加里細カリシノ一部ハ古拉裏府クラリヲ并セ
テ注肖公國ノショウニ與ヘ他ノ諸州ハ以大利國リノ一部
ヲ合セテ壹黎里州エリノ新國ヲ立テ之ヲ為シ瓊國
ハ亞得亞海アデルノ諸港ヲ失ヒ海路盡ク斷スリ

佛國略史

初地羅利ハ伯斯堡の約ヲ従ヒ巴威里王ヲ歸セ
リ人民我舊來の自由を強制セラシ且厚稅ヲ
苦シメ令者嶼國の兵亂ヲ乘シ兵を擧テ王ヲ叛
キ勢焰頗カ熾リて巴威里人を驅逐シて市府
を出サシメたり因テ佛の一軍ハ地羅利ヲ侵入
シテ掠畧を極ル人家兵燹ヲ逢テ焦土トナル勇
悍の一農夫波埃爾ト云者あり土民を煽動シ再
ハ敵兵を卻リ小康ヲ歸セリ然ルニ佛軍ハ大ニ
華格拉慕ヲ勝テ其勢ヲ乘シテ佛巴の二軍地羅
利を殄滅センと欲シ長驅シテ山峯ヲ入セ土地

を剽掠シ義士を捕ヘ強クニ叛逆を以テ之を
殺シ國再ハ馬西摩約瑟の虐ヲ陷リテ日耳曼
の小邦隙ヲ投シ佛の管轄を脱センと欲シ百方
策を運ラセリ嶼軍敗没後ハ佛帝威を歐洲ヲ
振ヒリハ術の施モヘキなく遂ニ其志を絶テ
リ
初拿彼倫撒至尼西を除クの外辟門里格利亞多
加納巴馬の地を并ヒ是ヲ至又維也納ヲ在テ教
王の政權を削リ更ニ梵地の餘地を奪テ之を并
セ持リ給スルニ資財を以テシ羅馬府を以テ獨

佛國略史

立の帝都と宣し教王を護して奔頓錫羅と遊致
 せり教王再び拿破侖と約し政權を復せり至
 らると雖も使節を朝に通し又朝使を拜し且和
 尚を選任せざるを許さる
 拿破侖ハ維也納の和議後千八百九年十二月元
 妃若塞芬を去り千八百十年四月煥帝の長女馬
 利亞路薩公主を娶り拿破侖ハ教王の土地を并
 せて佛の土地と宣し羅馬を以て佛國の一都と
 なるを方て佛國の太子ハ羅馬王の號を冒せへ
 る且佛帝ハ即位後十年間冠禮を羅馬に行ふへ

きの議を定めたり
 抑拿破侖ハ既ニ大權を掌握し威望赫変たるも
 已ニ衰頹に向ふの勢を萌せり此時西國ハ拿破
 侖ニ抗して屈せし英國ハ伯靈及米蘭の公布ニ
 復して出沒患をなすハ拿破侖の苛虐ニ苦し
 む物情沸騰し擾亂已ニ迫たり初人民士篤恒及
 彼得堡の政府ニ訴へ互市通商の道を開らんふ
 とを請ひし是ニ至て英國ハ魯國と貿易を閣
 敦堡及他の東海諸港ニ開らし拿破侖ハ魯國の
 我意ニ背き互市通商を加ふるに嘗て魯帝の親

威阿丁堡公を享べし其享の至らざるを念む
と聞き言て曰我嘗て魯帝と兄弟の義を結へり
今魯帝信を破る此の如しと是に於て斷然魯國
と絶つゝの意を決せり
是時の方て魯瑞の二國ハ拿破侖の宣せざる所の
大陸條例に抗し終に英國と連和せる故に拿破
侖ハ乃歐洲西南の兵を募集し其衆を恃み尼面
河を渡り進て里都亞尼の首都に向ひし魯軍
ハ佛軍の進むに從て退き過る處家を毀ち野を
清めて土地を荒蕪しさり拿破侖ハ敵の詭計を

察せし我本軍を率て墨斯科に進り別て大軍を
遣て彼得堡道に迫らしめたり然共佛軍ハ西摩
連斯科府の墨斯科の技城を以て大半皆此
府に向て進み八月十七日之を襲ひ短兵を以接
し終に此要害の府を抜きし魯將巴古理德多
耳里ハ火を府中に放て軍を班ししり
魯人ハ一戦を交へて空しく墨斯科府を敵に饒と
るを以て屑とせし魯將格室索魯人を督し進て
波羅的那村傍に陣し敵兵を迎へ大に戦ひ兩軍
死者者大凡七万人尋て佛軍新に援兵を得しを

以て拿破侖ハ進て墨斯科府マ入り魯帝の舊殿
哥列木林を以て行在と為せり然るに都人ハ府
尹の令を奉り人々我居を徹し更ニ火を府中ニ
放てり佛軍ハ此沍寒の敵地ニ深入し今總ニ冬
營を得て人々喜ひしに忽ち各處火を發せり佛
人百方之を滅せんと努力せしに火勢熾しして
燄煙天ニ漲り全府蕩然其存せざる者ハ四分の三
ニ過き
拿破侖ハ敵の術計我意外ニ出て倉皇措を失ひ
遷り令を下して軍を班せしに兵氣大ニ沮喪し

人々風聲鶴唳を恐るるに至り嘗て南歐洲中ニ
跳梁跋扈せざる者今ハ遁竄の敗兵ニ陥り加ふる
に寒氣常々比をまハ大ニ凜く霜威栗冽更ニ一
勁敵を生じし如く佛兵勇悍なるを之を凌ぐ能
ハは飢寒ニ苦しむ斃る者万を以て數ふべく
且魯人ハ屋舎大ニ佛寇ニ踏踏せらる舊都ハ灰
燼ニ委せらるを以て憤懣し尾撃せらる極く急なり
佛兵追兵の鋒鏑ニ死傷其數を知らず敗兵普魯
士波蘭を經て撤遯し退きしに拿破侖ハ其身己
に危く加ふる奇計を運らし勁敵の亂入を防ら

佛國軍

んと欲し開車し乘り裘衣を被り馬を鞭ち行を兼わ程を合せて巴勒に歸りたり

拿破侖ハ既ニ大敗を取るとも尚佛人の歡心を失ハき因て其敗を償ハんと欲し元老院に商議し大ニ兵を募り金を課し其他軍資を徵發し編伍既ニ備ハリ直ち進て北向し拿破侖の兵衆敵に過るを以て歐土の列國心私り恐るたり又普國ハ人心皆佛と戦ひ其羈絆を脱して自立を欲するを以て國王終ニ意を決し魯帝亞力山大キサルと同盟を約し合従して佛兵と戦ひ五月

二日路警ルに敗績し二十一日二十二日又波戰ハに敗ぬせし未と存亡の決に至るは然るに拿破侖ハ大兵の損せらるる驚き且敵兵の動ぬるを恐る姑し休戦の議を及ひし英國政府ハ休戦の間は投し大ニ軍資を出し聯合軍を懲息し又填帝ハ固より拿破侖と婚せらるを以て心快とせり故に乃ち節を變し我婚に敵し聯合軍を合せり

此時拿破侖ハ牙營を德ドレスデンに設け智を竭し力を盡して衆敵と戦て利多かりし一旦兵機一變

一數隊連日敗衄せり拿破命敗兵を救集一
 大力戦して禍福を一擧す賭せんと欲し兵を引
 て進て來伯悉克陣せしう思はきりき戦既閑
 きて撤避兵の一隊叛て聯合軍に應せしを以
 て十月十八日大に壘下り敗も己を得去て軍
 を退けて萊尼に向ふ聯合軍之を追甚急なり十
 月三十日哈隘に力戦せしう將官列德巴威里人
 を帥て我を迎へ戦ふ我兵大に敗きて擒となら
 者其數を知らず是に於て伯爾拿多的ハ撤遜
 り佛人を驅逐し惟士發里王國佛郎佛白格大公

國愛先堡公國奔德來速公國ハ相繼て覆没し按
 塞加塞の選公北命瑞克窩孟北德公及阿丁堡公
 ハ國に歸り漢那華人ハ舊政府を興し魯國ハ萊
 尼易地間ニ邦土を再造し自立の勢終り和蘭
 及び人民頓り佛國の羈制を脱し阿蘭的家を奉
 戴して再び世襲の王位に即りしめたり
 紀元後千八百十四年
 聯合軍ハ勝り乘り長驅して巴勒に入り以て拿
 破命を制服せんと共り部署せり時ニ空林登ハ
 軍を引て隊伍を整頓し進て希央納に向ひしり

不爾奔の舊黨乃ち再興し七王の遺族を翼戴し
 舊王の白旗を波多ポダの城堰に樹てり拿破命ハ十
 月二十九日伯路折ボロシを貌林納ポリンに敗りし聯合軍
 と拉羅地爾ラロヂに戦て敗績し軍を班して羅亞爾馬ロアール
 隣リンの兩河の間を退き巴勒を守るの計をなす
 千八百十四年三月三十一日聯合軍進て巴勒に
 入り魯帝聯合帝王の名を表して宜を言ふ曰
 凡我同盟の國復拿破命保那巴と和を講する勿
 き復彼族類と義を結ぶ勿き佛國ハ唯舊王の土
 地を有つを得へく又日後新設の政府を奉し且

之を保護せしむと因て聯合の帝王ハ臨時の政
 府を立て以て佛國を統理し且國憲を制定せし
 むんと欲し元老院を召集せし四月一日盡く
 來會し多禮蘭の世故を老練せるを以統領とな
 し其他四人を配し之を臨時政府に任し翌拿破
 命及其族類を廢し復佛國の王位に即くを得き
 るの旨を宣し紳董院も亦之を奉し路易十八世
 を復しイ位に即し乃ち之を國中に宣した
 り
 此時拿破命ハ四月二日帝位を奔噶貌羅に退き

即日聯合の帝王ハ議して拿破命を以^ル爾巴島^ニ諸まゝ決せり

佛人ハ拿破命の羈絆ニ繋り積年の戦役ニ苦^シみ^レ今者既ニ治平ニ復^シ寧食安眠の庶幾ま^レへきを以て人々相喜ビ相與ニ安静を祝^シ元老ハ新ニ數員を増^シて上院をな^シ又舉國の目代を召集して下院を興^シ國王路易ハ寛法を選^用ま^レるを約^シ新ニ允章を制定^シ其中頗僻の條件無^クら^レざるも大ニ人民自由の權利を得^セし^レ六月四日此新允章を闔國ニ宣^セり蓋此允章ハ

佛國の人民ハ齊^シく是平等の人なり上用を資給^スるも齊^シく力を盡^スま^レく衆人齊^シく官^ニ就^クを得^ルく又人々の志を枉^ケず隨意^ニ教宗を信^トるを許^シ開板を強制^セず人民の生産を保護^シ既往を尤^クも強^テ壯丁を兵籍^ニ編入^セま^レ又國王ハ行法の權を有^リ舉國の兵を督^シ兵を起^シ和を講^シ將校を選^任し法典を創^定して宣布^スるも特權を握^リ敢^テ之を廢^スま^レら^レ又上下二院ニ商議^シて立行の權を得^ル凡租稅^ニ關^スる法典ハ必^ズ之を下院^ニ議^スるを要^ス又立

法院ハ王在位の間其費用を營度一又王ハ二院
 を召集一上院の議員を選任一或ハ之を子孫に
 傳へ或ハ之を其身に止まり又議院の會議を繼
 續せしめ或ハ下院を解散せしむるを得るも三
 月にして新之を會するを要し又下院ハ選社
 より選舉せし代議士を以て之に充て全員五分
 の一ハ毎歲之を改選一又代理の任に當る者ハ
 年四十に滿ち正税一千法朗哥の族を要せり
 抑佛人ハ反覆常なく陰に心を廢帝に歸せし者
 頗る多く人心自ら安せし加ふるに王族及宰相

の人ハ各意見を執て相容せし民心亦背馳一又
 王ハ舊貴族を遇せし其我に従て歸國せし者と
 自ら異るを以て心不平なる者甚多く且王常に
 我復辟ハ英國の力に藉きりと宣言せしを以て
 人民之を惡めり又嘗て拿破侖に屬して久しく
 軍に從ひ功を立賞を蒙り身の顯榮を得者ハ昔
 日の全威を回想して拿破侖を追慕し現に我士
 卒の己に解散し俸給資財の己に減し且我威權
 の損せしを以て一層の怨怒を増し私に王を廢
 し故帝を奉戴せんと欲し又官地の地主ハ其地

を失ふを患へ且人民ハ租税の重きを苦し其
嘗て約せし所違ふを怒りたり拿破侖ハ既マ
人心の和戢せざるを察し釁を乘りて王政を覆
さんと欲し千八百十五年三月一日乃佛國の海
岸に上陸せし士民響應する者甚多く一滴の
血を注ぎし京城巴勒に入ると其勢恰も凱旋せる
者の如し

佛王之を聞き我黨與と共に倉皇佛國を亡け
り因て拿破侖ハ乃ち王の設立せる允章を廢し
上下兩院を解放して新宰相を選任し且今者

巴勒の條約中畫定せし佛國の疆界を以て我望
み已に満足し他日寛法を立て我億兆を統治せ
へきの旨を宣し以て衆心を收んと欲せしと畫
く部黨の意を副ふ能はし且其勢要するに歐洲
と一大戦を及ぶの危急を免らし

此時聯合諸國の宰相ハ方々維也納に會集し拿
破侖の佛國を歸ししを聞く相商議しゆるハ拿
破侖ハ四海の治平を紊亂する賊なきハ我同盟
同心協力して彼を討滅し以て巴勒の條約を維
持せざる可らまとは是に於て奧魯英普の列國相

議一千八百十四年三月一日の約束に基き各十五
万の軍を出せしめきり決せり拿破侖も亦兵馬を
徵集し軍備をなせ四月二十二日國憲に新典を
附加し上徳美の會集を命じて人々をして六月
一日新典を遵奉せしむ
此時歐洲の大戦已に迫まり拿破侖諸將を會し
大地圖を開き各着色を以て敵を表し以て我
向と部署を即一色を以て塙兵を表し他色を取
て英兵を示し自余の列國に至るまで皆然り其
比利時中ハ赤色甚く多し空林登七万の軍を率

ひ進て比律悉く向ひしを以てなり此地方の緑
色亦甚く美なり伯路折十四万の普軍を將とし
散伯河邊に陣せり故なり其他魯西亞巴威里
匈加里以大利の着色あり蓋此役や列國兵を出
し者九十五万人更に各本國を成り應援し備ふ
る者四十九万六千二百人あり
六月十五日拿破侖進て查理羅に至り分て納以
て遣て英軍を當て而して躬親より普軍を攻撃
し翌十六日里哥尼に奮戦し大に之に勝つ是に
由て伯路折ハ我空林登の軍に達する通路を遮

らるゝを慮て終に軍を退けたり此日又瓜多爾
 伯拉^{ゴラ}の激戦より昔日半島戦の舊敵復來て相持
 一而佛軍ハ兵多且砲騎兩兵も亦衆一英兵ハ匹
 馬單騎も亦有多く又一砲の備なきに終日佛騎
 の馳突に當り且連發の砲彈に抗せし^ク空林登
 適に援兵を引て來り至る大砲及龍騎兵の來り
 援くるに及て佛兵乃ち退く翌十七日兩將各兵
 を聚て以て勝負を決せんと欲し拿破侖ハ分て
 哥路西^{ゴロシ}を遣て普人を拒りし翌十八日蓋世の
 名将雙虎の威を振ひ一生の智勇を角し千載の

聲名を争ひ雌雄未と決せし是時の方で歐土の
 人民勝敗の決を聞くと欲し人々耳を傾て待居
 たり其戦地ハ即華德路^{ワデル}にして而其將ハ他
 非也即拿破侖^{ナポレオン}空林登の兩將あり此時拿破侖ハ
 七万四千の將とし空林登ハ七万二千七百二十
 人の將とし又伯路折^{バロゼ}ハ七万の軍を率て英兵の
 應援に備へ又哥路西^{ゴロシ}ハ四万の兵を督して佛軍
 の應援より其意蓋其驅り進むを遮り以て戦を
 得さらしむるに在るあり
 此時に及て拿破侖ハ復昔日の聰明睿知の拿破

命は非を此役や拿破侖初頗る勝を得しは此機
に乗じて勝を制する能はま又禍を轉じて福と
為るアウストリアの里里士非里多蘭の如き能はま豈遲疑
して後ましつ將と持重して動さざりし瓜多
爾伯拉マ納以を援ふを欲せま又里哥尼戦後直
ち英兵を攻撃せま其間一日を経く之り為る
空林登ハ徐々畫策を一定し比利時の要害を據
り以て變に應むるの備を為したり此日方々日
曜日より諸寺の鐘聲禮拜を報せり會て俄に砲
響四徹各邦の人民足を企て捷報を待しり拿

破命ハ躬士卒を先んじて縱横奮戦し其勢恰夜
又の如し然るに英兵ハ一帶赤服軍伍齊肅死力
を奮て防戦を佛軍又騎兵を放ち大敵を連發し
終に舊牙兵を縱て之を突し英兵又動くを酣
戦數刻勝敗未だ決せず普軍の砲聲遠く振ひ伯
路折の已に近きを在るを報したり因て空林登
大喝一聲士氣を鼓せしハ従前鎮肅せる群衆
一時に奮起し齊しく喊吶して拿破侖の雙耳を
震し盡く皆銃鎗を揮て衝突し其勢水の決せる
如し佛兵ハ此勢を辟易し隊伍紛亂して復支

へま人々四顧惶惑為す牙を知らま先を争て敗
 走を拿破侖ハ宿志一朝マ一て失ひ唯隳然と一
 て切齒セ一者良久一竟に嚙を回一巴勒を指一
 て七走セリ
 抑佛國の人民ハ固トリ拿破侖に心服して彼々
 旗下に屬するに非ま何者三千五百万の人民勇
 を鼓して我國を防禦セハ歐洲の列國縦に同心
 協力まるも竟に國中に入る能ハざるへ一此時
 佛人ハ心を歸するの主無きり故に皆力を盡さ
 且國を賣セも蓋不爾奔家ハ先世民を虐け一を

以て人民之を疾之を忌に拿破侖ハ現に民を
 苦り一故に人民之を恐之を厭ひ人々怛然
 手を束て傍觀セ一故に列國の軍勢ハ勞セま
 國都に入を得掠畧を極たり路易十八世も亦匈
 加利の衛兵及帝王の援兵を以て巴勒に歸り拿
 破侖ハ佛國廣一と雖膝を容るゝの地無く竟に
 自ら英國に投セ一英國之を三厄利那の孤島
 に謫一たり
 是に至て佛國の人民始て我往日の窮迫困苦ハ
 其源悉く拿破侖に在り一を察し人々財貨を失

此生靈を殘せる其無數なるを追想し一人の拿破侖の昔時絶倫の智謀雄畧を称賛せる者無し其既さ島中さ卒せし以來佛民漸く怨怒を散し加ふるさ物換り星移り拿破侖の敗衄を目撃し拿破侖の羈絆さ病し者漸く死亡し是より佛民拿破侖の功名を称揚せる恰も我皇祖に於るり如く華徳路の敗績を忘て馬連格日那の大勝を称するハ亦笑ふ可と謂ふへし
 乃ち聯合の諸國ハ^{フランス}亞克辣沙^{ライヤミ}百兒^ハ會議を開き
 千八百十八年十月九日終る我佛地の戍兵を解

き佛國政府より前役の軍費を償はしめ以て其群臣の望み副んと商議せし佛國の致差ハ國の為め力を盡して其間を彌縫し終る各國の欲する所の全額の一分を出して事終る止る佛國方さ歐洲の大國に列するを得たり然共佛人ハ大抵皆今者王政に復し衆務多く舊貫に仍るを以て心不平を懷き之を為る政府ハ動搖已まむ或一團の王政黨國議を主り或一群の自主黨之を指揮したり
 此時佛國內ハ行政諸局立君政治の正理漸く盛

執政の宰相深く歐洲列國の大陸條約を守り
 頗る隆運に向ふの勢有りしう代議士の選舉法
 甚自主黨の爲に利便は過るを以て宰相の人々
 竟に新選舉法を制定し以て多くハ富豪の地主
 を擧て代議士に任し又臨時の權道を設け開板
 の隨意を禁し以て強制せんと欲せしう之を爲
 物情大に沸騰し二院中過激の議論を發し千
 八百十九年及二十年の會議間終に激烈の争端
 を生し二黨罪を責て相與に攻撃し其勢極て急
 まるを以て宰相の長官デカヒス德加塞數通の書を作り

二黨を和解し之を宰相官に相和せんと欲せし
 う千八百二十年の二月路伯ル此人死す至る迄不
 終尚王室を口を鎖事藉き伯里公を殺して其
 罵詈を極む是に於て德加塞致仕し理塞留公之
 代りダクトリ尼兒ニール黨ル張るる黨あり及自主
 黨の強抗するを顧み終に新選舉法を施行せ
 し因り貴人或ハ書を作り或ハ代議士の班に
 在て新法を訛議し新宰相の出る毎に廢黜せら
 る或ハ兵簿より其名を削奪せらる者甚く多
 く之を爲る衆黨竊に兵士を慫慂して不軌を圖

り發覺して叛逆の罪ヲ處せらる者亦少ク
千八百二十三年佛王會議を開き十萬の兵士を
起して西國を征するの意を述へり當時近隣
ヲ騷擾有るを以て深く自國の安全を慮り親
ラ兵を督せし因て安格勤謨公兵ヲ將とし西國
の王權を復せんと欲して此國ヲ赴きし向ふ
所前々く喀德斯黨皆鋒を避て加的斯ヲ逃し
西王非難多此府ヲ迫りし時逃兵皆王政を遵奉
せざるを誓ふたり

路易十八世晩ニ多病ニシテ氣力衰七ノ政事を
親ラりし政府を以て確立静謐ニシし能ハ
る千八百二十四年九月殂し實ニ復辟後九年ニ
弟查理十世立ち固く允章を奉守するの銳意を
宣し安格勤謨公を以て宰相會議の班ヲ除し開
板發兌の訛議官を罷り維列爾を擧て一等宰相
ニ任し千八百二十六年五月舊章ニ從て即位の
禮を來木ニ行ひ又允章を奉して蒼生を統治せ
るの約を結ひたり

千八百二十五年拉發惟多再亞米利加より來歸
 一 哈非府^{ハハフ}に至りたり。府民喜て相待り頗る厚
 一 政府ハ彼を疾之警兵ヲ令一劍を揮て路上の
 群衆を急撃せしめたり。此時の方て塞蘇多徒^{セソト}の
 威權頗る尤進一維列爾ハ人民歸向此の如くふ
 きハ其弊を生せんとせむを憂へしり果して國
 憲を顧せしめて事を行ひ且國通處置の故を以て
 自主黨の怒ヲ觸き身危殆及ひ是に至て朋黨
 愈相軋り王黨及塞蘇多徒ハ公然其本意を露し
 自主黨ハ愈勇悍を増し加ふる。政府ハ國敵を

待り不當の處置を採用したり
 千八百二十六年十二月十二日議院を開き外務
 卿達馬士衆^{ダマシ}ヲ謂て曰く歐洲の列國ハ西國の葡
 國の國事ヲ參與せむを拒んと欲せり故に我國
 も亦列國と力を戮て我使節を馬德里^{マドリ}より召選
 し且英國と約を結ひ西葡二國をして各其國法
 に従て政務を行はしめんと欲せし抑此會議中
 議負激論を發し嘗て宰相の設けたる諸の苛法
 を廢せし。此時又開板の自在を強制せむ嚴法
 を免ましハ實に人民の幸と謂ふべし。初巴勒の

護國隊の兵員四万五千人有り嘗て上徳馬斯エドマースに
 関まるとき宰相を怨み怒罵セーウハ是に至て
 此隊を除けり是に於て人心大に不平なりて辣ラ
 非多ヒット便沙ビシ民君士シス但シ及自余の議員宰相を詰責セ
 んと商議セーと因り維列爾ハ此舉人望を失ふ
 も事情已むを得ざるに出来たるを解説したり
 查理ハ兄路易の世に比をまハ更に甚く共和政
 治の意に忤ひ且僧徒ハ相會議して數百年の舊
 權を復せんと欲し人民ハ久く争て纏り自主の
 權を得たるに政府竊り此權を奪ハんとせり

意あるを聞て人々皆疑懼し民心漸く朝廷に親
 きを朝廷も亦人民に和せを加ふるに激徒ハ益
 此釁隙を開き其機を乘りて君主政治を傾覆セ
 んと欲したり又自主黨ハ王に迫り新くに宰相
 官を置き温公の治法を行ふを約セーりも亦
 其大任に當るの材なく上ハ王權を維持し下ハ
 自主黨の蠶蝕を防局し以て君民をして相和セ
 ーむる能ハを其自主の制多きり為り反て王黨
 ハ深く害を受け自主黨ハ王黨を以て徒に無用
 の廢物と為り大に之を蔑視せり至まり查理

ハ人心和セモ宰相其人ヲ非サカを見て之を廢
一更ニ波里那克公ヲ任一て新政廳を改創セ一
メナリ

千八百二十九年八月九日波里那克公を外務卿
格爾波西兒侯を鹽印の守護兼司法卿不爾門侯
を陸軍卿不爾德那埃侯を内務卿門伯侯を僧務
兼文部卿加貌羅德古路蘇侯を大藏卿と云々其
後塞侯を海軍兼属地事務卿と云々蓋水師提
督里尼侯の辭セ一を以て云々此は皆王黨一
て當初ハ治法宜きを得公平無私一て頗る靜

寧平和の氣象あり一漸く其故態を發露一共
和黨を籠絡する能ハモ共和黨ハ王の塞蘇多徒
及僧徒を愛一且嘗て革命喪亂ハ際一又拿破侖
ノ事へて志を得たる者を擯折一且朝廷往日の
舊禮を復たるを見る一及て各皆王の自主の權
を廢一君主專權の治法を以て佛國を統馭せん
と欲モといふ流言を信するに至り一又佛王查理
及宰相ハ君權政法を興復せんと欲一其氣を宣
揚セ一此時貴族其數甚々多く一皆貧一
加ふる一皆政態を諳セモ君權政治を興復する

の力を存する者あり故に國典を論する諸説紛
紜一和せしむ之を為す相共の協議せしむ雖徒の勞
して功無し

紀元後千八百三十年

王侯貴族ハ時勢の暗く世故の疎くと雖佛人の
勇悍にして兵を好むを熟知せ初亞爾及耳人佛
國の國旗を凌辱し且領事官を府下の鎮台衆中
に毆撃し大に無禮を極めたり故を以て亞爾及
耳を討せんことを令し大に船を艦し五月十日
歩兵三万七千五百七十人騎兵四千人船を土倫

に渡るる九十七隻六月十四日亞弗利加の海岸
塞的非爾拉に上陸し一舉して亞爾及耳府を陷
め鎮將を擒りて之を以て大利に搦致し其財
を掠奪する巨萬歐洲の列國ハ佛國の屬地を北
亞弗利加に興し戍兵を置くを以て之を嫉む者
多し故に佛國之を和解せんと欲し倂て亞爾及
耳を畧するハ唯一時の事のみと宣言し其實此
地を以て至要の屬地とあり今に至りて尚之を有
ち毎年財を費せ算ふに民力を盡して之を成り
而我國に得る所無く亞弗利加洲の為にも益を

所なきハ又實ヲ嘆ヘ一初佛王以為らく亞爾及
耳を畧取せしハ大ニ人心を維持せし一と五月
十七日日報新聞日且らく二院を解放し又新ニ
公撰を行ふヲ為メ八月三日復ニ二院を召集せん
との王命を載セ又六月十五日の新聞ニ舉國の
人民をして我憲法ヲ依らしむヲ為メ各選社ニ
來テ其職分盡をへきの諭言を載セリ其畧曰
朕苟も民の父母とあり憂心悄悄々群小ニ怒らる
今朕此議院の解放を命じ汝選主速ニ選社ニ行
き必らず其席を欠勿も汝選主一心を以テ衆心

とス一旗を以汝の聚點とせ之を汝ニ責る
ハ汝の王より汝を召聚せしハ汝の父母より汝
衆庶各其今を盡セ朕亦我今を盡さんと欲せし
抑此新公選ハ六月下旬及七月中之を行ひ而
亞爾及耳の軍ハ本國公選爭論中已ニ戰功を奏
し諸黨皆悦て之を祝せしと宰相の人々之を
以テ人心を和緝せる能ハし加ふるニ新選の徒
ハ宰相ニ甘く者甚多し要するニ六月上旬ハ
政綱を更革せざるを得せし識者ハ既ニ私ニ相
語きり實ニ今利の期眼前ニ迫る

波里那克公及其同僚ハ無誓の妄念を懐き今黙
して屈撓をるよりハ寧ろ允章を破り民約を破
り佛國をして亂を生せしむんと此時那不勒王
后妃と與り巴勒朝を此時亞爾及耳の捷聞四
日々して方々巴勒達たり故を以て佛王冥
樂を張て那王を饗し且舉國の寺院を令し捷頌
を詔て戰勝を賀せしむたり
此時方々巴勒の激烈倔強の暴徒ハ常々君主
政治を覆さんと欲するの勢ある故に佛國の商
賈及有地の良民ハ深く内亂の再發せんとせり

を憂へ且過激の共和黨閥國に潜伏し其數多
らざるも皆暴戾兇悍なるを以て此徒一發せし
む其暴虐を行ふ哇哥芬黨の威權を弄し惡逆を
極めたりと今日の時勢殆んど相同しりるへ
と皆之を恐る且佛王查理及宰相波里那克公ハ
斷然昔日の君主專權の治法を復して國人を統
馭せんと欲するの流言有る良民ハ嘗て安堵せ
しむらハ恐くハ危禍に陷る無くして以て能立

憲君主の權利を保持するを得へし然るに此機
に際し七月二十六日宰相國王に建言せし其
所論専ら開板の隨意を禁制するに在り其言に
曰く方今我國危急に迫り願ふに唯陛下之を
安きと置くの權有るのみ苟も政府其保全を計
るの權無くんハ一日も政府たるへりら且允
章の第八條ハ各人の唯自己の論説を傳播する
を許すのみ敢て他人の論説を傳播するを允せ
るに非を加ふるに允章中固より新聞及開板の
自在を允さば蓋新聞ハ政府の良意を謬傳し開

板の隨意を免せし不良の記者ハ事を記するに
誹謗の意を寓し人民ハ其真偽を辨せし反て怨
望の氣を生じし王此建言を得て乃ち三條の命
令を下し以て悉く允章の大本を破りたり即其
第一條ハ未だ會集せざるに及て新に選舉をへ
き下院を罷め第二條ハ公選の法を變し又大に
選主の獨權を奪ひ第三條ハ新に嚴法を設て開
板を強制し其隨意を得ざるにせり然るに
巴勒の人民之を聞て且驚き且怒きとも且りく
黙して異議を發せざるに由り宰相ハ陽に都人

解國器辨

の鎮静せるを見て大に安心し互に相慶祝せし
り都人ハ敢て然らば方我黨の目代を召集し固
く政府に抗するの方法を高議し新聞家の巨擘
たる者ハ激論を發し開板の隨意を強制するを
辨駁し曰我業しして開板するの權利あるハ猶
他業しして各其權利ある如し故に新聞を以
て生産と見る豈他の生産と異なる所あらんや
然らば則我國憲を破るに非ざるハ政府焉を猥
に之を奪ふを得んやと然とも政府ハ敢て隨意
に開板するを允さば唯我為に利する者を選て

持て之を許せるのこ
形勢此に至るハ佛人の氣象を以て長治を保つ
る能はば巴勒府選主の目代及當時巴勒に留寓
せる外内地方の目代凡三十二人銀鋪主辣非多
の家を會集し相與に深く時事を論議し以て
其成敗を一決せんと欲し又縉紳の一團ハ署入
爾公の邸に會集せし書々皆政府に服し肯て
は因て縉紳議文に連署し一目代に命じて之を
國王に獻せしり王拒て之を受り是より由
て代議士ハ斷然意を決し書を作て政府の惡政

佛國器辨

を暴し急遽四十人を巴勒周圍百里内の市井村
 落に發し其人民を論ま各其意を決し巴勒人
 と同心協力して與に國人の自由を保持せしむる
 の意を以てせり
 政府ハ又之を聞て戒嚴し一將を治那爾^{ゴチール}他將
 を安惹爾^{アンゼール}遣り又拉格撒^{ラグザ}公大將馬爾門^{マルモン}命し
 巴勒の兵事を主らしめ兵隊を巴勒周圍五十里
 内の軍營に徵して戍兵を倍し又此夕數隊の警
 兵を不爾斯^{ブールス}の周圍及大道の傍に屯戍せしめた
 り此時政府ハ強制の處置多き中にも警保長令

を下したり凡讀書堂及び加非肆等政府を恐る
 を本月二十五日開板の事就き王命を背きた
 る新聞及他の記文を讀み下むる者あるハ其新
 聞及び著述者と同罪を以て論し一時其肆店を
 閉收せしむると此令を下したるハ實に民情を察
 せざる者と謂ふべし蓋佛人の新聞を讀み加非
 を喫する積習ありて朝食を廢するより之を
 已む難を以てより警保の有司ハ之を願ふに終
 り讀書堂及加非肆を并せて之を閉收し且又勢
 を乘じて劇場を閉したり是に於て人民怒を

佛國史

發して大聲叫喚允章を復せよと呼者あまると宰相ハ恬然自安一今暴發せんとする騷亂ヲ心を留めざるハ又恠むへ
二十七日火曜日の午前巡邏及警兵歩騎相共私社新聞^ナ署^{シヨ}那爾^ナに迫り一堅く門戸を閉鎖して入るへうら因て兩兵之を毀ちて亂入し活字を奪ひ社長を縛りて獄に致し次て他の私社新聞^{ダアン}達安^ンに至り刷印匠門口を断て之を拒るに排して又亂入し紙冊活字を奪取せしりハ府民ハ此暴動を見て決然王命に抗し各職業を

廢し製造處を閉收し一隊の工人巨杖を手し市街を徘徊し警兵ハ此勢を見て縱横馳驅して以て烏合の群衆を潰散したり此時府民ハ其強暴に辟易し巴勒の肆店盡く門戸を閉鎖したり府民ハ近衛兵鎮臺兵の陸續巴勒に進入するを見て大に憤懣して竟る意を決し羅葉爾宮^{ロハヤル}を^ス斯低士宮^ス不爾斯^{ブル}を以て會處と為し衆人喊吶して允章を復せ獨權王を亡せと大呼せると其相識らざるを以て迭る言語を接へ此際佛王^{キリシ}ハ朱列里^{シュリ}に在り數千の兵士を加路撒園^{カハサ}に屯し

佛國史

多く巨礮を備へ又孟多慕の標柱下を精勁の衛
 兵を屯し以て柱上の王旗を守護せしむり烏
 合の群衆蝟集して官兵を迫り暮ら及て各處に
 小戦を發し官兵は總て利多し馬爾門ハ佛王の
 捷書を報し平定を賀したり然共都人の深更瓦
 斯燈を毀ち暗し乘して人々詰旦の戦備を成せ
 り
 水曜日の晨巴勒の府民盡く戎装して肆店を密
 閉し窓戸を遮隔し各亂に備へ警鐘の響きを應
 じ人民府中の各處より蟻集せしり前夜已に檄

を遠近に移し大に國王宰相の兇暴を暴露し各
 人をして國の為に相與し力を合せて不爾奔家
 を排倒せしむを以てし且徹夜府民ハ睡りも人
 々皆戦備を為し勝負を一舉に決せんと欲し武
 庫弾藥庫を奪ひ兵杖を製、銃肆及巡邏の屯營
 より求め又大道を横絶し障隄を建て騎兵の馳
 突に備へ智勇の上將を選んで我総務を指揮せし
 め赤旗を大厦の屋上に揚て衆民相與し歡呼し
 三色の旗旌衢街を徘徊し衆民皆三色の帽纓を
 戴き三色の胸装を服して之を識し巴勒全府乍

仲國史
輩竟、内亂を發せざるを得んやと是に於て馬
爾門亦其意不從ひ代議士皆退りり
衆波里那克公の答を聞くと輒ち憤慨し争ひ進
て官兵を敵せり然るに上將馬爾門ハ酷烈の處
置を行ふに忍びを遂巡して正午に至りし終
に意を決して兵力を以て市街を掃蕩せんとい
兵を分て四縱隊と爲し之を各所に向ハしめた
り此時馬爾門兵を分たし應援して戦を交へし
むとハ大勝を得へき兵を分て其力を殺きし
ハ實に誤ると謂ふへし既にして護國隊一鼓

して侵襲を令し終り一大激戦をなせり
各縱隊ハ殊死して奮戦し而して府民ハ小銃を
障隄或ハ窓櫺屋脊或ハ街角或ハ狹斜隘巷より
亂射して官兵を覺せり羅葉爾宮に向へる者ハ
聖波諾爾街に激戦し官兵の衆を懼むを死力を
奮て相戦ひ又瑞士の衛兵と塞列貌圍り力戦を
衛兵力竟り屈し大に死傷を蒙て敗走し又拉格
撒公躬より莽得馬多爾街に攻撃し府民ハ各處
に障堤を設けて官兵を敵し鎮臺兵竟り遂巡し
て府民と戦ふを欲せし府民ハ虚に乘して數處

佛國史

の扼塞を陥またり此時日已_ニ没_シ官兵ハ終日
食ハ_シ人々飢餓身體疲勞_シ衆軍敗走_リ營_ニ入
_リ府民ハ相與_シ飲食を製_シて戦人_ニ給_フ銳
氣愈盛_リ
府民ハ敌人を止む_ルや輒_チ路上の磚石を發_キ
之を路上_ニ横積_シて胸壁を築_キ其高_キ胸_ニ至
_リ其厚_キ四五尺大約五十尺を隔_テ之を連接
_シ其他數百の樹木を倒_シて道路を塞_ク智_ノ及
ふ所力の能_ハ所_ヲ極_テ為_ス無_ク人々詰朝官
兵ト一戦_シ勝敗を決_セんと天明を待_テり

水曜日_ノ黎明府民警鐘_ノ響_キ應_ジ輒_チ兵杖
を攜_ヘ府内_ノ各所より聚合_シて一大郡團を為
セ_リ此時官兵_ノ我衛所_ヲ失_ヒ者ハ多_クハ皆
路_ノ貌_ル爾_レ及_リ朱列里_ニ屯_リ瑞士人_ノ近衛隊_ハ聖波諾
爾街_及其近街_ノ屋宇_ニ屯_セり此時學校_ノ諸生
盡_ク皆力を府民_ニ戮_セ各所_ニ分_テ衆民_ヲ指
揮_シ其義勇實_ニ府民_ノ信_ヲ得_ル足_マり是_ニ
於_テ官兵朱列里_ノ園_ヲ絶_チ加路撒_ノ園内
々近衛_ノ鎗騎兵_三大隊近衛_{第三}聯隊_ノ一大隊
加農六門_{あり}因_テ近衛兵奮擊突戦_シ終_ニ波_ハ的_的

佛國史

爾德維兒を陥まじり府民ハ小銃を塞列貌園及其堤壩に近接せし家屋の窓櫺より亂射し各所相合て官兵を攻撃し而して官兵ハ勇を鼓し百方苦戦して力終り屈し已むを得し堤壩に浴て且戦ひ且退く塗上忽ち近衛胸甲兵百名大砲四門其每一門護衛せる騎砲手十二人の援を得て人々大力を得て波の爾德維兒に向ひ猛火を飛して各所相合して攻撃を始り砲兵ハ堤壩より霰弾を放て塞列貌園を打ち勢を乗し之を退け追て馬德里多及慕頓街を走りし此日再

波の爾德維兒の陣地に入りたり府民勇氣を奨勵し危を衝き險を冒して急撃せるに因り官兵又之を失ふたり二十九日人民の代議士拉撥越多を以て護國隊の總督に任り府民大に之を悦びたり學校の生徒二十歳の一青年兵を引て路貌爾を攻む瑞士の衛兵其銃を避け朱列里に退く尋て人民青年を司令に任し又朱列里を抜く此時盧林堡已に人民の手で陥たり此役也學校の青年大に力を盡し後賞牌を賜はるとも敢て受けを又兵部を

佛國史
入るゝ及て中尉の官位に任まるとも又之を辭
せり是に至て官兵或ハ復人民に敵せざるを誓
ひ或ハ銳氣沮喪して敗衄し二聯隊擧て府民に
降り官兵竟に上以里塞道を経て巴勒を逃亡せ
府民之を尾撃せる甚急なり此夜巴勒始て平定
し府中澄を點せる白日の如く強衆の邏兵徐に
市上を巡りて不虞を警めたり
查理十世の目代黎明已に聖給羅より波の爾德
維兒に來り十一時代議士及縉紳の當時巴勒に
在る者各其院に集會し此時摩的馬多公下院に

來り前日王の手署せる四條の令を述べたり其一條ハ二ト
五日の王命を廢し二條ハ八月三日二院を召集し三
條ハ摩的馬多公を以て國議の統領に任し四條ハ
塞拉德侯を陸軍卿に任し加西米爾百里侯を大
藏卿に任せしむり此時衆人始ハ黙して之を側聽せ
し終りに至てハ復聽さるる如し蓋代議士の望む
所ハ查理十世の位を退くに在るを以てなり
七月三十一日代議士疇爾良公を迎へ佛國の中
將に任まるとの命を傳ふ午時疇爾良公路易非立
又代議士の招きに應じ佛國の軍旗を攜へて急

巴勒^{バール}の赴き以て佛國の中將を奉まゐるの旨を
 傳へ又政廳の諸局を一時の有司を置けり
 此時佛王ハ舉族聖給羅^{セントギル}の七^ノ又維兒^{ウエル}^{サイル}の
 西南六里朗貌埃^{ラウモア}の小府を遁またり時巴勒の
 有司三使を遣り王の述る所あり王塞爾^{セル}爾堡^{ブルグ}道^グ
 從て去り且巴勒の遺せる冠飾等を送り致さん
 ことを乞ふ使者歸て之を報せ有司乃ち護國隊
 を以て服飾を朗貌埃に送ら^シめたり八月二日
 の晨中將查理十世及太子路易安多^{アント}菴^{アン}を廢せる
 已に我掌中に在り然共查理の位を避る波多^{ボルド}公

の為^ニせり蓋王此日一書を作り^テ疴爾良公を以
 て佛國の中將に任^シて公に命^スせり波多
 公を顯理五世と稱^シ以て佛王の位に即^シむ
 へきを以てせり
 八月三日中將縉紳及代議士に告^スるに查理を廢
 せるを以て^シ又加西米爾百里侯を議院の統領
 に任^シり六日王の缺位を下院に稱^シ且允章の
 條件を議^シ七日新に允章を更革し人々疴爾良
 公を迎へ此更革せる允章を遵奉するの約束を
 取^リて佛國の王位に即^シむんと欲^ス八日代議

士の一團公の邸宅に至り王冠を捧けし公乃
ち之を受け九日議を備へ誓約を結ひ以て王位
に登まり
巴勒の戦争間府民號令を嚴し務て凶掠を禁
せり故に查理十世二隻の米船を駕し英國に至
るを得せしり英國政府は查理を遇する平民
の如し抑千八百三十年七月の革命戦ハ一王族
を廢して佛國の王位より退け他の王族を選て
之に代りし人々をして人民ハ政府の人民に
非ざるの正理を知り政府に強従するの舊風を

看徹せしり激黨ハ隙に投し君主政治の特
權を削奪し佛國をして共和政治に擬せしめん
と欲せしり得ること能はむ人民ハ非常の改革を
行ひ其心尚饜足せを更し今日官吏の首として
戦争を成せし者を捕て其罪に處せんと欲する
の心あり因て急ぎ之を踪跡し數月にして故宰
相彼倫納日耳諾尼德蘭維爾上的羅斯波里那克
の四人を逮捕し獄吏之を讞し終身幽囚の科に
處せし此時一團の群衆喧噪して盧林堡を圍み
囚虜を死刑に處するを乞ひ若し之を肯せざれば

ハ躬くら迫て怨を報ひんと欲したり此時讞獄
 已ニ酬ニして群衆其死ニ處セざるを察し之ヲ
 為ニ大ニ怒を増し亂を成んとするの勢あり因
 て兵隊及護國隊ハ夜露營を公園ニ張り武装し
 て以て不虞ニ備へ佛王及拉撥越多も亦躬くら
 力を盡して人民を鎮撫せしり群衆聚合し且益
 狂噪せる故ニ未ニ罪按を讀み聞セざるニ及て
 竊ニ四人を芬先納ニ送まり
 千八百三十一年前廢帝の黨ヲ謂加里斯多黨人
 民を德惠し物情頗る動搖し加ふるニ共和黨拿

破命黨禍亂を國都及諸州ニ煽動し方ニ其釁ニ
 乘セんとせり佛王以為らく此時機ニ臨てハ親
 くら諸州を巡狩して人心を和哉せしハ不軌ニ
 與せるの徒も心を改て我ニ服せしと因て終
 ニ意を決し諸州を巡狩せ到る處人民王を奉せ
 る極て恭謹ニして君民協和するの勢あり然る
 ニ會ニ里昂府の賤民職ニ離れて稍動搖し其勢
 竟ニ激烈の亂民ニ化し護國隊の遷延軍人の怯
 懦ニ乘し終ニ之を陷き數日之を保守し官兵終
 ニ之を制し捕て之を鞠せし王此暴動を以て

伊國史

口實とて以て向日の改革を因り臣下を允したる權利を削奪せんと欲したり
路易非立に在位の初激烈の土寇蜂起せり國內の繁榮ハ日々新月を盛む向へり然共此時亞弗利加ハ依然猶未だ服せず
阿厄利の亞伯德加德あり者蓋佛兵の勁敵なり加德佛兵と戦て數々利あり敗るもハ則摩路哥帝の邦域を遁竄し其出沒不測にして佛兵之を捕ふる能ハは佛國以為らく摩路哥帝竊に加德を懲息して之を援ひ以て我を寇せしむと是に於て佛國議を決し

兵を出して摩路哥帝を征服し他日局外中立の公法を奉せしめんと戎維爾公ハ伯盧頓號の軍艦に乗し但徐爾の海岸に至る此府ハ英國の属地にして德盧門哈之の領事官たり德盧門哈間居て二國を和解せんと欲し先戎維爾公とのを議せしむ公聽を俄に但徐爾府を砲撃して謂て曰く我復猶預まら能ハは敵兵已に戦備を為せり彼不軌を圖て我を欺く此機に臨てハ兵力に頼るに非まんハ豈に他の為まへきあらんやと蓋此役や佛人ハ僅に死者三人傷者十

佛國史

六人なるる幕爾人ハ死者百五十人傷者四百人あり
次て公轉して摩加德府を攻めんと欲し軍艦を進めて其港口に入り砲口を開て攻撃を始り終日猛火を飛して砲撃し敵兵ハ府中の砲臺及港口の小島に築ける砲臺より烈火を放て防戦し尋て我精兵五百人其島上より血戦數合幕爾の成兵大率半ハ劔を手にして斃まり佛兵ハ勝り乘り砲撃を行ふ益急り沿岸の砲臺次第に破壊し府下四周の本堤竟り崩壊せり府民ハ此勢

を恐まらば人々猛火を避けんと彷徨狼狽先を争て適より加比列の野民群を為し山上より下り來り民家を剽掠し塗中に斃者の被服を剥き奪へり此時佛艦ハ猛火を飛して悉く幕爾の城郭を粉塵し上將貌墨ハ阿厄利軍を帥ひ摩帝の牙兵を以斯里の沿岸に會し奮戦數刻終り全勝を得たり摩帝其力敵し難きを察し竟り屈して和を結ひ其欲する所に従て摩帝ハ亞伯德加德を逐ひ兵を我疆界に聚むるふきを約せり因て佛兵摩加德を去り相與り囚虜を交易し佛摩の戦

争卒ヲ和セリ

亞伯德加徳ハ従前佛兵を困レメ戰テ敗リ去ハ
則チ遁逃一卒然又勇卒を率テ再ヒ來リ犯一出
没不測佛兵奔命ヲ疲ル加ふるマ亞弗利加ハ日
氣酷熱佛兵之を苦クモ是マ至テ佛人宿怨を報
セ一リ其殘忍上古野蠻の史乘マモ未嘗テ之を
を聞クモ此時加比列の一族島列土里亞佛兵の
追撃モ所トナリ人々洞穴マ入テ之を遁モた
リ因テ佛兵洞口マ臨メ大呼一ト曰出テ降モと
而一ト之を肯セモ乃チ洞頭マ束柴を積メ火を

點一ト之を薰ヘ氣を絶一レムんと欲セ一マ尚自
若キリ是マ於テ佛將哥爾百理西兒書を作テ洞
中マ投一ト曰汝輩兵仗馬匹を致セハ汝の死を
赦一汝の自由を復セヘ一ト答テ曰少ク此を退
ケハ命マ從ヒ出テ降服モヘ一ト佛兵其強項モ
るを怒リ焚柴を洞中マ投一たるウ人々呼吸速
迫一ト絶んと一號泣の聲始ハ深く地中マ響キ
漸ク微マ一ト後唯束柴の爆聲有るのみ其後屍
を閲モるマ双を蒙むるあり重創を負へるあり
蓋中マテ或降服センと欲一或力を盡一敵セン

佛國史

と欲する者有て交相刺殺せらるり抑炮烙の苛責に逢ひ焚死する者老弱男女凡八百人屍肉糜爛して熱坑の畔産に焦着せるあり亞弗利加の人民其殘暴を怒り之を報せんとして亞刺伯の諸族到る所兵を起し勇士亞伯德加德を推して將とし佛兵を敵し千八百四十七年の末に至て佛將辣摩里西兒加德を圍條約を結て終つ之を服せり

羅伯百爾の國政を行ふ及て佛英の交誼其極に至るり英國女王維多利亞ハ佛王路易非立を

塔多マ候し其後幾もらも佛王亦英王を温薩爾に存問し兩君好を為す此の如く厚し然り而して中情に至てハ尚迭々猜忌せり今其一端を舉ぐハ佛國ハ希臘の可列低マ黨し英國ハ蒙路哥達多斯マ黨したり可列低の死後希國土寇起りし時英國竊に援けし可列低の設け置たる政法終る行るまハ佛國の威權の行またる者の如し

佛國の政府巧事西班牙に行ふとあり西國の女王及び其妹の婚を議する及て佛英二

佛國史

佛國史記
國共之之參與一佛國ハ不爾奔統の西王を續
へきを主張一英國ハカカ各堡家コルネルクの公子を以て
西國女主を配せんとせり西國の太后キリスチア
那ナこ固より莽得キ賈ジ西爾公を迎て我長女を妻
さんと欲一たり嘗て烏特立ユトレットの條約中荷爾良
家の公子ハ西國の王位を即しを得るの意を傳
へたる故に佛王ハ違依して我子の婚を辭一之
に代するに那王の兄弟亞基アキ拉ラ侯ホウ或ア頓トン加カ爾ル羅ラの
長子達ダ拉ラ發ハ尼ニ侯ホウ或ア頓トン法ハ朗ラ西シ哥カの二子を以て西
主を配せんと欲一たり亞伯德アベルデ尼ニ公コウハ佛王の其

子を以て西主を婚せざるを約せるに因て之を
報ゆるに不爾奔家の公子に非まハ敢て他家の
公子を西主に納まざるの約をなせり佛國政府
以為らる英國若一此約を破り各堡家の公子を
西主に納んとせまハ我乃ち佛國の公子を以て
之を争ハ一むるの權利ありと然るに英國の西
國領事官ハ我長官の命を守らむ且西國政府の
商議一各堡公の當時里斯本リスボンに寄寓するに乘一
之を馬德里マドリッドに招き共各堡家の公子を以て西
主に納るの議を定めんと欲一書を作り之を里

佛國
斯本ヲ贈りたり太后基督亞那之を聞き心私
ラ之を悦て以為く佛英二國約を結ひ一英
の領事官今之を破まる故佛王必ら其莽得賓
西爾公を以て我長女ヲ納るへきを主張せし
と是ヲ於て亞伯德尼公佛國の宰相ヲ報する
西國政府の事を行ひたる放恣の状を以て且
我使者ヲ警り西國の議ヲ參するまらしむ此
時羅伯百爾の宰相黨退職し民黨之ヲ代り巴爾
美爾斯敦外國事務ヲ任し國事一變したり太后
ハ此改變後乃ち英國政府の我ヲ連及するを憂

ハ馬德里僑居の佛使貌列遜を促し女主を
的斯公ヲ婚し其妹を莽得賓西爾公ヲ妻ハまの
議を決せしめし貌列遜ハ固より此議ヲ與
るの權有る故太后の意を諾したり然る
此報佛朝ヲ達せる時佛王乃ち幾蘇士侯ヲ命
貌列遜を以て斷然此議を辭せしめんとするの
際馬德里ニ在る英使貌爾維爾方ヲ教令を受け
たり各堡公を西國の禪を受くへき義嗣たり
と佛王此報を得て疑懼し乃ち急ニ使を貌列遜
ヲ遣り一時ヲ女主依撒伯及其妹の婚娶の議を

確定セーリ幸々西國の婚を全ふを得たり
 是實ニ佛國の欽差英國の欽差に賢り事の周旋
 其宜きを得たりと謂ふへり然共佛民ハ國王の
 功を全ふせるを称する者なく且宰相官ハ之ヲ
 為ニ衆ニ譴責せらる事ハ千八百四十六年ニ在
 路易非立の在位間ハ内亂百出ニ千八百四十七
 年ハ其數最多クして大ニ政府の患を蒙せり伯
 拉林公ハ佛國の一貴族ニして朝廷の至親なり
 大將塞巴斯底尼の女を娶て妻とせり此年之

を殺せり殘忍を極りたり朝廷之を逮捕一方ニ
 詢せんとせり及て彼自ラ藥を飲ニ自殺シ
 て刑を免またり蓋伯拉林其子の女傳ニ通シ之
 を納まんと欲してなり將官デスパンスキユビレス般格啤勒ハ亦
 佛國の貴族ニして前ハ兵部卿あり前ハ宰相デ
 斯多ハ當時一等裁判廷の統領あり皆賂を貪る
 の罪を得る由り百方之を辨まると終ニ免
 っる能ハリス多ハ十万法郎フ哥の賂を受け
 礪山社ニ允許を與へたるを首伏したり政府之
 を獄ニ繋きし馬銃を我子ニ需り竟り自ラ

銃殺せり司法卿馬陳德諾士ハ俄マ死シたり馬
陳陰マ窩賭マ遊ヒ一々適マ巡查の發覺モる所
と為リ憂テ俄マ死セリ貌列遜ハ曩マ西國の婚
姻を全ふセ一々此マ至テ咽を刺シテ死一又以
密德義拉成ハ幾蘇土の貴族官を賣らんと欲モ
るを罪一已モ亦嘗テ此官を需めるの罪發覺
一又内務卿ハ一官紙マ允許を與テ十万法郎哥
を貪りたり其他要路の官貪罪を犯モ者頗る多
ク弊根漸ク固結一國王の德望政府の保全日マ
衰頽マ向ふの勢あり

千八百四十七年十二月二十八日佛王議院を開
キ謂テ曰ク近日我國改革の風習大行ル是人民
不軌を圖るの妄念より出るると人此言を聞
テ解體セざる者一和順マ一治を願ふの徒モ
過激マ一亂を好むの黨モ與マ之を怒ラマ至
リたり
然るマ國王及政府ハ冥頑マ一尚懲リモ改革
宴を設キ抗黨を一此宴マ參出セ一以一言マ
一此黨を辨斥一以テ確立不動の國義を建ん
ト欲一第二十日日曜日を期一以テ宴會日と定め

イウ其後日を延して次の火曜日を期し失り
火曜日の黎明改革宴に参出せる諸日代相警て
曰く凡事を論する愈穩ままハ其功亦愈大なり
故に弟公平温和に議論を發し以て徐に政府の
所為を辨責せんとは是に於て檄を府民に傳へ諭
て曰く願くハ喧嘩する勿し願くハ旗旗を攜へ
徽章を佩ふる勿し護國隊として我列に與する
者ハ願くハ劍を脱して我に陪従をへしと
商工の一群風雨を厭ハせ城街及上以里塞に輻
輳し馬徳列因寺と下院との間ハ其地廣闊なる

も人民之日充滿せり正午一列の工人賤衣を服
し進み來りしに步兵一聯隊民部の長と共之
を潰散せり次て學者の一黨議文を署し一代人
を托して之を議院に送り以て宰相黨を謹責し
たり
日脚の移るに從て城街の肆店盡く門戸を閉鎖
せ岡哥爾園に烏合せる人民馬塞列士の古歌を
誦し又國の為に死す壯士將何恨ミんの語を誦
し千八百三十年七月二十七日の同時刻に於る
り如く直ちに進て一等宰相の官邸に至り石を

投て之を攻撃し窓檣の玻璃障を破碎せしむ一
隊の騎兵之を見て急襲て反て傷く者頗る多
く一人ハ頭顱を碎けり護國隊ハ晝間心欲せ
さまと云尚命を奉して絶呼集を鼓せとも第
七列的命一技隊の下院を警衛せる者至て
ハ此日早く已令を奉せ然る人民ハ堡障
を羅葉爾里波里聖波諾爾聖不羅連陳の諸街
的列園其他要害の地々建築し夜半官兵の破る
所々為り而して官兵ハ露營を街上堤傍及市場
に設て夜を警めたり詰朝府民再堡障を建築し

佛國界史

力を盡くして之を防守し官兵之を攻撃せしむ
及て死傷せしむ是に於て護國隊乃ち宰相を背
て改革黨と與し第四列的命の一小隊ハ戎装し
て議院前を進み改革黨の爲に議文を出し此時
又第二第三及第七列的命の技隊ハ一齊喊叫し
呼て曰く改革黨を救ひ奸邪を斬り幾蘇土を倒
せと抑時勢此に至てハ宰相官を改選せざるを
得て因て蒙列侯を選抜し中夜上將貌蘇に任ま
るに護國隊鎮臺兵の總督を以てし次て蒙列侯
其任を誤まるを以て乃ち低爾病的倫巴爾羅の

佛國界史



佛國史記

二氏を擧げ之を授くるを政廳を設立するを任
を以てせり

佛王ハ苦心焦思鎮安の策をなせしと思はさり
き一奇變生し之を為す土寇化して革命亂る移
り勞して遂に効をなし鎮臺第十四聯隊大佐の乘
馬一流丸の為す脚を傷まり大佐以為らる賊兵
の為す攻撃せらると因て忽ち令を下し一齊に
銃を發せしめしり群衆の號叫沸く如く六十
二人立ち上り路上に斃せし一大隊の胸甲騎兵ハ劍
を手を以て馬を馳して屍を蹂躪し幾蘇土の居邸

波^ホ的^テ爾^ル德^ド加^カ伯^ホ新^シ傍^ホの全景恰も修羅の巷の如し

是に於て府民屍を車上り載積し之を運して府
中を徘徊し死人の幽影焦火瓦斯燈の淡光を映
し其凄慘實に見るに忍びを終る那署^ナ拿^ナ爾^ルの邸
前^マに止り瓦爾^ガ尼^ニ兒^ニ巴^バ的^テ亞^ア爾^ル曼^マ馬^マ拉^ラ斯^ス其他有望
の府民を召集し到る處呼て曰群衆速に兵器を
取て我等今日苛責を逢ふへしと木曜日の晨に
至てハ府民宰相官を改選せしを以て意既満足
せりとせし新宰相官ハ自ら其才の任に堪へま
るを知り且復我國人の忿恚を増進を欲せし軍

佛國史記

人々令一固く銃火を發せざるを禁一たり
是々於て軍氣大々沮喪一特々守戰を計り朱列
里の庭内々退きたり是々於て護國隊ハ盡く潰
散一土寇ハ勢々乘一て益進之終々火器を發放
せ宰相ハ術計意表々出て且驚き且望を失一た
り既々一て賊兵集嘯佛王を圍々狼藉傍ら人無
き々若く或罵曰く汝我為々汝々舉族を屠戮セ
らまんと欲せざるや或ハ呼て曰く疴爾良の女公
攝政たらハ果一て萬民を救ふへ一と王是々至
て終々退位の書を作り朱列里の宮殿を出サシ聖給

羅々退きたり

此時那慕公ハ尚朱列里の庭内々在て駿馬々跨
り歩兵二聯隊を指揮一て王を守衛セ一り賊勢
猖獗復保守せへ々らま因て徒々生靈を殞せ
忍び是令を下一て火器を發せざるを止り一りた
り會々護國隊の一枝隊更々庭内々入り來り一
故々之を以て力ら賊兵を驅逐せん欲せ會々
疴爾良女公二子を攜々囹圄を経々朱列里を遁
せ一報を得ハ女公の安危を慮り乃步馬々鞭て
驅て庭内を出せたり抑女公の道々一や實々好

機りして塵り一步を後るまハ母子共々免る
、猷ハモ此時戎装セル賊兵已リ里波里街を經
朱列里を指して來りたまハふり既りして那慕
公岡哥爾園に至り兵隊の号令に上以里塞り
て戦隊を作り以て疴爾良女公をして恙無く聖
給羅宮に達せしむんと欲し又衛卒を此地の口
頭及土爾難橋上に配し総て防衛の策を運らせ
り此時女公母子、一群の府民の圍む所と爲り
下院を指して行き群中議官及巴勒侯服従の將
校多きり居り其下院に至るに及て衆歡呼して

女公を祝し去彬侯の議後衆人更々又女公を称
揚し下院の列位亦之を賀して萬歳を唱へ勸呼
の聲已まきりし衆中異議の徒も亦頗り多く
紛紜時を移せり疴的倫巴爾羅侯ハ攝政を援て
辨論せしり異見の徒盡く之を排斥し拉馬陳侯
を主とし衆議士終り萬民の向背に従て議を決
せんとし會々強暴の賤民群を爲し人々或ハ刀
鎗を攜へ或ハ火器を持し護國隊の装束を被り
たる數輩三色の旗を擁して先導を爲し直ち
て衝て會院に入り兇惡の一青年賤衣を服し敢

て上坐に登り忽ち銃を觀て統領を射んと欲せり他の惡漢ハ突然王族の列位上を踏藉し怒色を形ハして衆を睨視し自余の兇徒或ハ議士を罵詈し或ハ之を凌辱し其暴動狂の如く竟に攝政に推及せり^リ疇爾良女公ハ二子を攜へ恨を銜て議院を退きたり立君政治是に至り終りて^レ列德留羅林臨時政府官員の姓名を讀み終り相率て^レ波の爾德維爾に^レ行^キ共和政治を頒布し^レ此時佛王ハ竊に朱列里を出し人民又此宮殿に迫り及て護國隊ハ乃ち叛て之に與せり此

時佛王ハ后妃と共に徒歩して宮を出て園庭を経て^レ潛行し^レ路易十六世の枉死せる舊地に至り腹背府民に圍まはれたる幸に凌辱を受けし一馬を服せし小車に乘り疾く驅て^レ聖給羅に至り此府より海岸を指して七走し^レ翌木曜日英國の蒸氣船に乘り^レ翌蘇士塞哥の紐哈芬に至り疇爾良家佛國を統治せる十八年是に至り終り七ふ當時の史氏曰く佛王路易非立亦兄弟の友に人民所願の公平無私の心を用ゆまば高年にて我本國を大去するの患なきべし王親しく

諸々の禍亂を目撃せし之を鑑て自戒むるの
意なく嘗て患難の日人民を約せし所の者ハ意
を得るに及て之を忘れたる如く佛國ハ他國
に比せしハ人民自由を唱ふる甚熾んとして之
を為す再び革命亂有り其他血を喋ると數くする
に政府ハ法を設て開板の自在を強制し内外人
民本國を出入する者官券を得ず及選兵の請ふ
所を非せしハ敢て出入を得ず公會私會の自由ハ
之を禁まると千八百三十四年九月の國法に
準し伯里爾の評まる如く其行ふ所查理十世の

號令を實行せし外ならず代議士選舉の法た
る豪族に非せしハ選主に當るを得ず故に全國の
人員に比せしハ其數極て寡く之を要するに民
部兵部司法公平に且選主を擧るの法も亦公平
なると人民の自由ハ嘗て有る無しと
人民ハ已に共和政治を公布し自由公平友愛を
以て本とし是に於て入本德羅爾を國議の統領
に任し拉馬陳を外務卿列德留羅林を内務卿格
多賞侯を大倉卿哥列慕を司法卿法郎士亞拉哥
を海軍卿將官希陀を陸軍卿加爾諾を文部卿伯

多門を商法卿馬利を工部卿加貝那克を阿爾及
耳の鎮台瓦爾尼兒巴的を巴勒府の知事亞耳曼
馬拉斯路易貌蘭不羅岡亞伯烏貌里を秘署監に
任せらばたり

巴勒及芬先納ハ臨時政府を遵奉一疴的倫巴爾
羅大將貌蘇其他抗黨の數員も節を屈して政府
に服したり是に於て朱列里の官殿を廢して病
院と為し工人の傷者を治し且王室歳入の金額
百万を給して以て不具の工人都人を救ひ又國
事の爲に捕ら就き若くハ罪を犯せる者ハ之を

放ち之を宥め又三色の國旗ハ佛國共和自由公
平友愛の語を表し又赤色薔薇の徽章を以て今
日革命の標記と為し臨時政府の官員ハ皆之を
服まへきを宣し又千四十八人を以て一大隊と
為し二十四大隊を以て捷動隊を編し以て巴勒
を鎮せしめ又宣訟官ハ獄辭を草し幾蘇土の宰
相黨を罰せんと欲せしに大抵皆間を得て英國
に遁竄せり
右に記載したる數人ハ禍亂の際に皆事務の長
官に登りしに互に意見を持して相容まざる黨派

隨て分裂し拉馬陳ハ今者改革黨の首たりて馬
拉斯及自余の者と典に憲法を則とり自由の正
理に從て國人を統治せんと欲し路易貌蘭列德
留羅林ハ今日の改革ハ往時の改革と異なりて
國事の關するの小事にて民事に涉るの大なる
を辯し政府の急務ハ工職を起し以て人民の困
窮を救ふに在るを主張したり因て先人民の向
ふ所を偵んり為り代人を盧林堡に召集し路易
貌蘭ハ統領と為り亞伯鳥貌里ハ副統領と為り
以て各人の志を聽き又官肆を開き來て工職を

為る者ハ勤惰と云く人毎に與ふるに二法朗哥
を以てせり諸州の工人之を聞て招集する者數
ふし相結て明黨を為し終に暴説激論大に府中
の騷擾を成し富人ハ自ら危く自安の計を以て
國を去る者多く巴勒の貿易一時大に衰微せり
此時國民議會ハ新國憲を制定し佛國を選州に
區畫せり又激黨の赤帽共和黨と名くる者有り
自主の舊赤帽を冠して徽章と為せる故に其名
を命せり此黨ハ國民議會中より議員の選舉法
を改め其員中我黨の者を以て多きに居りし

んとませり然るに議會ハ赤帽黨の強争に關せ
ま公選法を以て議士を選擧し其員皆温良の徒
なる故に互に隙あり五月十五日議會職工卿を
置くを排斥せしを以て激論紛起し拉馬陳大に
力を盡くして幸に之を鎮定し終に路易貌蘭を
放逐せしり尋て又一層激烈の動亂を生せり初
官肆中工人一萬三千有り六月に至てハ其員十
二万の多きに至り政府之を如何ともせざる能ハ
ま因て令を宣し遠方より來せざる三万人をして
本州に歸らしむ是に於て官肆工人の代人ハ執

政官に會して論議せしり意を得ざるに因り市
上を徘徊して賤民を嘯聚し叫號して政府の惡
政を怒詈し人々柵を樹て壘を設けて内亂に備
へ又市府周圍の堰堤に據て守備を設けり政府
ハ人民響應して相抗せんとする此の如き者ハ
一朝の事非ざるを察し執政官皆職を辭し総
督ハ之を將官加貝那克に讓まり六月二十三日
の黎明土寇四に起り輒ち府中の一部を奪ひ塞
納河聖馬陳溝聖德尼街及聖德尼の外坊を以て
三面と為して堡障を設け又狹斜の大道を通せ

口頭聖德尼聖哇哥街等を斷ち堅營を填的爾
里士聖美塞兒諾多爾堤橋の兩岸に築き堡障を
街上に設け彼此相連接し射眼を堤中に穿て之
を守り又右岸を経て波的爾德維兒拿署那爾宮
安陳堤聖波諾爾の外坊に進み中央に從て惹斯
低士宮路不爾宮國立銀行造幣寮に向ひ左岸に
沿て宰相及國民議會館盧林堡に進み以て巴勒
の西部に於て兵衆を糾合するの策を施す一た
り
連戰三日晨より昏に至り官兵は大砲を放て堡

障を破壊し又爆母彈を各處に擲ち地雷を發し
て漸く賊兵を窘蹙せ賊兵は漸く敗走して一塞
に遁ち移り第四日官兵賊兵を合撃し賊兵終に
聖安多因の外坊に遁ちたり坊上の賊兵預め堡
障を建設し彼此相距る加農砲力及ふ所の距
離を以し又横衝の一方に聖馬陳溝に達し其他
に塞納河に亘る者も亦堡障を設て之を斷てり
第十時官兵巴斯低爾園の臼砲砲臺を開き爆母
彈を其面の外坊に擲ち乃ち最近の人家を焚滅
し又廣く地雷を發し爆殺せんとするの勢を示

又將官辣摩里西爾ハ賊の兩翼を壓して陣セ
り賊兵服背敵を受け復敵をへらさるを察し
終に官兵に降服セリ
此役也兩軍屍積山を為す巴勤の大和尚亦死セ
り和尚賊を諭して兵を弭めんと欲し使者
と為て賊中に至りし偶股肉を流丸に傷り創
を病て死す將官加貝那克ハ亂兵を鎮壓し其後
乃ち総督の任を辭し尋て又行政の長に選擇セ
らるるなり
是に至りて嘗て五月四日集會したる國事議會一

憲法を制定セリ其畧左の如し一院を設けて之
を國民議會と稱し其員七百五十人公選を以て
選舉し其期久しきも三年を越へず又公選を以
て統領を選擇し四年を以て期とし而統領ハ親
ら次期に當るを得ず又其親戚も第六族に至
らば之を次期に選ぶを得ず總て國民會議ハ
立法權を任し統領ハ行政權を任す又人民の代
議士ハ日々二十五法朗哥を賜はり統領ハ官舎
の外年々六十万法朗哥を賜はるなり
人民ハ既に右の憲法を創定し第一統領を選舉

せんと共に人を求めし人心の歸する所將官加
 貝那克路易拿破侖保那巴の二人に在り路易拿
 破侖ハ故の佛帝の甥前の和蘭廢王の長子に
 て巴勒及他の選主の選舉する所となり已に議
 士の班に入り十二月十日人民二人の投票を
 せしむる路易拿破侖の爲にたる者五百五十萬
 人餘りして加貝那克の爲にたる者八百五十萬
 人より過きを拿破侖ハ特に其名を以て大に人望
 を得る者此の如く以て佛人の故の廢帝を追慕
 するの深きを見へし蓋加貝那克に與する者ハ

獨り共和黨の粹なる者のに拿破侖に黨する者
 ハ疇爾良黨不爾奔黨ハ論を待たず所謂友情黨と
 稱する者はより前六月嘗て加貝那克の爲に敗
 没せるを以て之を含て拿破侖に與せり是に於
 て路易拿破侖保那巴十二月二十日新憲法を遵
 奉するの誓書を署し儀を盡し終に共和政治の
 統領に任じたり
 路易拿破侖新に佛國共和政治の統領に登り在
 職四年の議定より千八百五十二年十二月十
 日を以て期とし而不爾奔黨疇爾良黨其他過激

の共和黨大ニ威權を國中ニ弄リ且立法議會ニ
參する者甚多く大率皆剛愎の徒ニシテ隙ある
ハ新統領を壓倒セリ然るニ新統領ハ強めて自
ら踏晦シ其窮窮勝するの状他日英斷の人ニ似
ま
拿破侖千八百四十八年の公選ニ因テ統領ニ任
シ在職未だ三年ならず千八百五十一年終ニ立
法會と爭論を發シ數ク民心ニ投シテ功を全ム
まるニ因テ抗者ハ其老奸を見て其狡黠を惡ミ
相仇する益甚シムシテ終ニ分利の期ニ迫リ議

會ハ相結テ朋黨を為シ以テ統領を覆さんと計
りたり然るニ統領ハ猜忌ニシテ權變有リ機を
見て斷然意を決シ暴酷の策を行ヒ以テ成敗を
一舉ニ賭セリ乃チ十二月二日の夜統領陰ニ兵
を部署シ一時ニ議會の首たる者を捕獲セシむ
其中低爾伯里爾其他干瓦兒尼爾希他加貝那克
辣摩里西爾等顯貴の將校有リ低爾ハ共和黨首
ニシテ有名の史家ナリ伯里爾も亦有名の代言
者ナリ抑統領の此舉を行ヒシヤ極テ神速ニシ
テ抗黨の意外ニ出テ以テ其を以テ度を失ヒ敢

て抗まらば暇あらざらば一滴の血を注ぐも
 手は唾して功を成せしハ能く奇を用たりと謂
 へし是に於て統領人心の向背を偵ハんと欲し
 十二月二十日二十一日舉國の人民をして投票
 を為さしめしは統領をして更に十年間職に在
 らしめんと欲する者七百五十万人あり之を駁
 する者僅に六十四万人のみ
 拿破侖ハ已に大に其根本を固ふし因て智を盡
 し慮を殫し務て永く我威權を失ハば且預め後
 來益隆盛するもの策を運らせり初世拿破侖帝

旗に鷲鳥を表せり是に至て此記表を聯隊旗に
 復し八月十五日我誕辰を賀し國人に命し美を
 盡して之を賀せしむる大祭日の如く開板の自
 在を強制し十二月二日逮捕せる民兵二部の
 首たる者を國外に放ち以て再び還るを禁し或
 ハ之を我屬地亞米利加州の加夜那に謫せり其
 後若干年を経て大赦し低爾侯等の如き歸國を
 得る者多し
 是時の方て統領已に外國と兵を構へ地を廣め
 んとせむの心を絶てり蓋是に由て頗る軍人の

歡を失ふと雖とも實に老成の妙策と謂へし乃ち統領諸州を巡狩し波多府に至り祝言して曰く於戲我國治平吾復何憂んと蓋此言大に人口を膾炙し貿易を關せる中人以上ハ尤も之を悦へり蓋中人ハ治平にして政府の無事を欲せる故に之を聞き統領を以て真に斯民を保安せるの人と為し心を傾て之を翼戴し終に永世の君長に登せんと欲せり此時不軌を圖り統領を暗殺せんとする者あり千八百五十二年九月二十三日一地獄機を馬塞爾に設て之を圖らんと欲

せし皆發覺し反て統領の威權を益せし至るに其後幾なり幸に元老院に議して統領を登せ帝位に即け家族をして佛國を世襲せしめんと欲せ相和せる者八十六人其之に従ハざる者一人のみ是に於て十一月二十一日二十二日國人をして投票を爲さしめし前より比をまはに従者更に多く七百八十六万四千一百八十九人にして其従ハざる者二十五万三千一百四十五人にして過を初拿破侖一世馬理路薩を娶て后妃と為し一子を生む之を羅馬の冲王と名是に至て新

帝の意謂らく羅馬王ハ父の謫後佛國を統治せ
 せと雖一旦佛の帝位ヲ登りたる路易十七世の
 即位せると一去りと因て親ウラ號して拿破侖
 三世と稱し千八百五十三年の始り西國貴族の
 一美女門低疴を迎へ其後之を歐塞尼と稱せり
 千八百五十四年土耳其を援て魯西亞と干戈を
 交へ終り西巴士多トを陥ひ是以て大に我軍人
 の心を慰り此役ヤ佛軍英兵合従し長圍冬月
 に至り阿馬ヲ戦ひ尋て印給爾曼ヲ戦ひ翌年九
 月竟り之ヲ勝てり佛將三阿諾始り總督ヲ任り

兵を指麾し阿馬の役ヲ病て死せ尋て上將干羅
 伯之ヲ代り後上將伯里西爾マ至て終り功を成
 せり馬拉克波布ハ魯の堅城まり伯里西爾軍を
 率ひ奮戦して竟り之を抜く是を攻城中決勝の
 激戦とせ因て佛帝其戦功を表して馬拉克波布
 公の称を賜はまり
 千八百五十六年三月佛帝嗣子を生み大赦を又
 魯國と和を巴黎マ媾し帝親ウラ之ヲ節度を為
 し事を處せり且きを得るを以て大に人心を服
 せり或又不軌を圖るの徒あり是亦曩の如く徒

其威權を熾くするの之然とも人或ハ帝若ク
死をまて黨與忽ち分裂一政法忽ち崩壊するを
憂ふる者亦甚多し

春羅尼河水溢ま横流して土地を浸し人民大ニ
困窮一餓死する者亦多し英國政府ハ之を
見て鄰好を忘ま大ニ財を散して窮者を救へ
り是より兩國の交誼日ニ親し

千八百五十七年路不爾宮の土工成り其壯麗を
極めたり蓋此宮ハ千五百四十一年法郎士一世
の創立する所なり拿破侖一世又壯麗の宮室

園圃を京城ニ起し以て其榮名を不朽ニ垂んと
欲ま拿破侖三世又伯父ニ倣ひ大ニ土木を起せ
しより

千八百五十八年榴彈を帝の乗車ニ放ち以て帝
を弑せんと圖る者有り首賊ハ以大利人荷爾西
尼ト云ふ者なり謀を英國ニ畫し榴彈を分爾
民哈漠ニ製せり事頗る英國政府ニ連及せり
是より英國と隙まを生し兩國兵を動くもの兆
有り

千八百五十九年嶼嶼兵を構ふ撤國ハ固より兵

寡く力微なり故に佛國大軍を出し以て撒國を
援くるを約せり蓋佛帝我從弟公子拿破命の為
に撒王維多爾以馬紐兒の長女哥羅低爾多公主
を娶り兩國緩急相頼るの誓を為せり四月十九
日曠將畿來侯撒國政府に書を贈り絶を告ぐ
撒國之を了承せり是に於て公然令を下し部署
して智西那河を渡り先辟門に寇入せんと此
時曠將一意鼓行し銳を盡して之を行へハ聯合
軍の未だ兵士を糾合せざるに及て大に之を破
るべきに遷延時を移して時機を失ひしハ乃

ち佛軍一ハ塞尼山路を過て以大利に進入し
ハ海路を涉り治那亞に至り五月二十日莽得希
羅に力戦し將官波來奧の大兵を卻け將官瓦里
巴爾的不規兵を指揮し亞力伯山の險を犯し直
ちに奥の右翼を逼り五月二十七日己に早く河
摩に達せり是に於て奥軍已むを得て退り智西
那河に據り敵兵を支へ六月四日馬先答に戦て
大に敗衄せり此時愛國の人上將馬克麻命大に
驍名を顯し聯合軍ハ勢を乘り北くるを追ひし
るハ奥兵敗走し術の米蘭を防ぐに違ふし故に

聯合軍ハ四日マシテ之ヲ陷ミたり
 多加納^{トカノ}巴馬^{バマ}君主ハ^{トカノ}奧國の威ヲ藉リ以テ久ク其位
 を保チテ此役の初マ方テ二國の人民四月巳
 日我君主を放チ叛テ^{トカノ}撒國マ與ミテ尋テ^{トカノ}波羅拿
^{モト}摩德拿^{マドナ}も亦之日與セリ六月二十四日佛奧の二
 帝親ッラ三軍を指揮シ^{トカノ}希羅那^{シロナ}の近傍^{トカノ}索爾希里
 諾マカ戰シ佛軍又大マ之ヲ勝テリ此時^{トカノ}奧國ハ
 勢已ニ盡ク以國の屬城を失ム^{トカノ}至リ且^{トカノ}威内斯
 及其全地を防守モル能ハキマハ^{トカノ}曼室亞^{マンシヤ}希羅那
 列那哥^{レナゴ}百斯刺^{ハクサ}位^レの四堅城も巴日陷ラんとシ六

月十一日二帝和を比刺^{ヒサ}伯蘭^{ハクラン}加^カ相議シ兵を解
 ン^{トカノ}其後和を^{トカノ}蘇力^{ソリク}講セリ是マ於テ^{トカノ}威内斯
 及其邦域ハ^{トカノ}奧國の管轄ヲ屬スル故の如ク^{トカノ}郎罷
 地^ジハ^{トカノ}撒丁^{サド}マ^{トカノ}歸シ^{トカノ}多加納^{トカノ}巴馬^{バマ}摩德拿^{マドナ}の三侯國ハ
 維多爾^{ビトル}以馬紐兒^{イマニウ}の王國マ令シ^{トカノ}明年の初以馬紐
 兒^{イマニウ}撒歪^{サウ}尼西^{ニシ}を割テ^{トカノ}佛國マ謝セリ
 以大利新^{ダリシン}王國更ニ土地を廣メ^{トカノ}那不勒^{ナポ}細々里^{シヤリ}の
 二國を併セリ蓋此舉ハ^{トカノ}愛國の義士瓦里巴爾的
 の力マ藉キテ五月瓦里巴爾的^{ワリバル}其友數人と共ニ
 小輪船マ駕シテ細々里マ至リ九月八日那不勒

入り以て大功を成し此の如きに至り將官
 撒的尼撒軍を率て波羅拿希拉刺孟那を畧し大
 教王の邦域を迫り翌千八百六十一年瓦里巴
 爾的ハ教王の遺地を征せんと計り以て國の
 政府ハ佛軍の猜忌を觸れんことを慮り固く之
 を拒み且撒兵の一隊瓦里巴爾的を撃て其兵を
 潰散し瓦里巴爾的身創を蒙り亞斯伯羅莽多を
 擒せり是後乃ち赦さる
 佛國政府ハ波蘭驢馬及合衆國の軍事に至てハ
 猶英國政府のことく固く中立の公法を守り取

て之に參與せしを尋て佛國英國と合従して支那
 を攻り千八百六十年西里亞を征し翌年兵を墨
 西哥に遣て騷擾を鎮定し以て我國患を去るを
 得たりしをんと欲せり
 千八百六十六年奧普以の三國戦争せんとせり
 勢あり佛帝乃ち英國魯國の政府と商議し之を
 和解せんと欲せ然るに奧國政府曰く我敵國の
 為に議して土を廣むるハ我國の敢て辭せり所
 ありと蓋其意謂らく普國の斯勒瑞黑斯敦に於
 るハ論を待ま以て國の威尼亞西亞に於るも亦其之

を有つへきの理なりとせむ故より佛帝乃ち事
の調ハさるを知り遂に之を已り其後埃普の
戦争數周互に勝敗あり遂に和を講せり及て
佛帝普國を求むるに萊尼州南陽の一地を以て
せむる許す蓋し此地方中撒爾貌力撒爾路易
の近傍に貴重の石炭野あり故に佛帝大に望を失
へり

佛國の史乘是に至て筆を闕し其後普國と大戦
あり普史事中に在其顛末を知るへり

